

調査名

孔番・深度 H27 B-2 (65 ~ 70)

観察日 H27 7/21 7/22 7/4 7/6

基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 65 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分					最大コア長 ROD	岩級区分	破砕度区分	記事・破砕性状・詳細スケッチ等
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化	変質				
	65.18			2.5YR 1/2	6	IV	B	β	2		CN	65.18 ~ 65.36 m = 0 割れ目なし。砂状。砂粒部は含有なし。	
	65.36			2.5YR 1/2	6	IV	B	β	2		DN		
0.5	65.97			2.5YR 1/2	6	IV	C	γ	2			65.36 ~ 68.27 m : CL 上部は砂状。下部は砂状。砂粒部は含有なし。 上部は砂状。下部は砂状。砂粒部は含有なし。 上部は砂状。下部は砂状。砂粒部は含有なし。	
	65.98			2.5YR 1/2	6	IV	C	γ	2	17	17	65.98 ~ 66.01 m は砂状。砂粒部は含有なし。	
6.6	66.20			2.5YR 1/2	6	IV	C	γ	2			66.01 ~ 66.17 m 長柱状コア (コア長 17 cm)	
	66.20			2.5YR 1/2	6	IV	C	γ	2			66.20 ~ 68.01 m 上下は砂状。砂粒部は含有なし。	
	66.39			2.5YR 1/2	6	IV	C	γ	2			66.39 ~ 66.65 m 割れ目なし。砂状。砂粒部は含有なし。	
0.5	66.39			2.5YR 1/2	6	IV	C	γ	2			66.39 ~ 66.44 m 下部は砂状。上部は砂状。砂粒部は含有なし。	
	66.65			2.5YR 1/2	6	IV	C	γ	2			66.65 ~ 67.00 m 硬さ 2.5YR 1/2 砂状。砂粒部は含有なし。	
6.7	67.00		Gp	2.5YR 1/2	6	IV	C	γ	2	0	6	67.00 ~ 67.46 m 落下コア (コア長 46 cm) 2度壊れ (2 m)	
0.5	67.65			2.5YR 1/2	6	IV	C	γ	2			67.46 ~ 67.63 m 長柱状コア (コア長 15 cm)	
	67.65			2.5YR 1/2	6	IV	C	γ	2			67.65 ~ 68.01 m 硬さ 2.5YR 1/2 上部は砂状。下部は砂状。砂粒部は含有なし。	
6.8	68.01			2.5YR 1/2	6	IV	C	γ	2	15	15	68.01 m 双層は割れ目。硬さ 2.5YR 1/2 砂状。砂粒部は含有なし。	
	68.27			2.5YR 1/2	6	IV	C	γ	2			68.01 ~ 68.27 m 硬さ 2.5YR 1/2 砂状。砂粒部は含有なし。	
	68.34			2.5YR 1/2	6	IV	C	γ	2			68.27 ~ 68.34 m 硬さ 2.5YR 1/2 砂状。砂粒部は含有なし。	
0.5	68.34			2.5YR 1/2	6	IV	C	γ	2			68.34 ~ 69.00 m : CM 硬さ 2.5YR 1/2。割れ目なし。一部は長さ 50 cm の白化部あり。 塊状部は 7 cm。69.30 ~ 69.40 m の 9% 割れ目あり。 砂状部は 2.5YR 1/2。	
6.9	69.00			2.5YR 1/2	6	IV	B	β	2	0	4	69.00 ~ 69.34 m : CM 硬さ 2.5YR 1/2。割れ目なし。一部は長さ 50 cm の白化部あり。 塊状部は 7 cm。69.30 ~ 69.40 m の 9% 割れ目あり。 砂状部は 2.5YR 1/2。	
0.5	69.69			2.5YR 1/2	6	IV	B	β	2			69.34 ~ 69.69 m : CM 硬さ 2.5YR 1/2。割れ目なし。一部は長さ 50 cm の白化部あり。 塊状部は 7 cm。69.30 ~ 69.40 m の 9% 割れ目あり。 砂状部は 2.5YR 1/2。	
	69.69			2.5YR 1/2	6	IV	B	β	2			69.69 ~ 69.95 m : CL 69.69 ~ 69.95 m は割れ目なし。砂状。砂粒部は含有なし。砂状部は 2.5YR 1/2。	
7.0	69.95			2.5YR 1/2	6	IV	B	β	2	10	10	69.95 ~ 71.06 m : CM	

7/21
↑
6/18
↓
6/6
5
6/9

調査名

孔番・深度

H27B-2 (70 ~ 75)

観察日

H27
7/21/7/22

基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 70 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分					最大コア長 FOD	岩級区分	破砕度区分	
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化	変質				
0.5					b	iv	B	B	2	37	13	CM	<p>割れ目には粗粒の塊状物に分布し、$20 \sim 65^\circ$、$65 \sim 70^\circ$、$70 \sim 90^\circ$の割れ目に因りて解砕化す。 前者の割れ目には面長に幅1~2mmの結晶化、$\phi 0.5 \sim 1 \mu m$の雲母(セリシテ)の分布を認む。</p> <p>71.06 ~ 71.88 m : C₂ 30°と60~75°割れ目が交差し、交差部の一部にて厚2.0~6.0%の結晶化部を認め、砂状部も認めらる。</p> <p>71.88 ~ 72.11 m : CM 一部にて10~15%の結晶化部を認め、面長に幅0.5~1.0mmの塊状物に分布する割れ目が多い。</p> <p>72.48 m ~ 74.67 m 割れ目には結晶化部を認め、砂状部も認めらる。</p> <p>74.57 ~ 75.16 m は長さ10cm以上の塊状物全体</p> <p>75.20 ~ 75.00 m には20~30°と60~70°割れ目の交差、交差部の一部にて片状の角状結晶化部を認め、砂状部も認めらる。</p> <p>74.85 ~ 75.00 m. 割れ目には粗粒の塊状物に因りて解砕化す。</p>
71	71.06			2.5YR 6/2 灰褐色	c	v	D	S	3	11	11	C ₂	
0.5			Gp							11	11		
72	71.88									11	11		
0.5										26	15	CM	
73					b	v	B	B	2				
0.5										18	18		
74										18	18		
0.5										0	0		
75										0	0		

調査名

孔番・深度

H27 B-2 (75 ~ 80)

観察日

H27
7/21 7/22

基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 75 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分					ROD	最大コア長	岩級区分	破砕度区分
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化	変質				
05					✓ b	✓ IV	✓ B	β	2			CM	
76	76.01									27	29		
05					欠5YR b/2 圧縮								
05					✓ c	✓ V	✓ B	γ	2			CL	
77	77.02		Gp							02	0	9	
05													
78					✓ b	✓ IV	✓ B	β	2		27	15	CM
05													
79	79.00									15	15		
05													
05	79.87				✓ c	✓ V	✓ C	γ	3			CL	
80										0	8		

75.65 ~ 76.92 m 内部に中層割れ目と最層の低い割れ目と持たない長さ26cmコア

76.11 ~ 77.02 m: CL
割れ目の交差はφ10~30μm片状の角状化が、
薄片自身は硬質で交代はなし
一部の割れ目はφ2~5μmの細粒状に幅10μm以内の
中に2000~27μm程度の存在がある。
全体は黒褐色の自酸化が主。

77.02 ~ 79.47 m: CM
全体的に硬質で約φ10~20μmの角状化が、
最層の低い割れ目とφ10~20μmの角状化が50%前後
に分散、細片化し易い。
鉄、銅の交代は割れ目とマロン酸の交代は割れ目の一部
一部は黒褐色の自酸化が主。
77.21m 交差する割れ目の一部で、幅2~3μmの砂状の交代
の大部分は割れ目全体に連続しない。

78.00 ~ 78.10m 深部は長さ10cm前後のφ10~20μmの角状化が、一部は
最層の低い割れ目とφ10~20μmの角状化が主。
78.40m 割れ目とマロン酸の交代が主。

79.00 ~ 79.10m 深部は長さ10cm前後のφ10~20μmの角状化が、
79.10m 40°割れ目の幅10~15μmの黒緑色化、
面状にφ0.5~1μm以下の微細な層状(セリサイト)の交代が主。

79.47 ~ 80.19 m: CL
30~50°と70°割れ目の交差、交差部の一部でφ10~20μm程度に
細片化。
20°割れ目の一部に幅2~3μmの黄鉄鉱~黄銅鉱の交代が主。
79.83 ~ 79.90m 割れ目とマロン酸の交代はφ2~5μmの細片化
進む。少量の交代が主。

調査名

孔番・深度

h27B-2 (80 ~ 85)

観察日

H27
7/1 9/6

基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 F.D (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長	岩級区分	破砕度区分	記事・破砕性状・詳細スケッチ等
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
80	80.19		Gp	7.5YR 1/2 灰褐	✓	✓	✓	γ	3		CL	80.19 ~ 80.48 m: CM 一部のROD露度の低い割れ目と含んでおり 割れ目現在物は分布しない。
	80.48				b	IV	β	β	2		CM	
81	81.1		Gp	7.5YR 1/2 灰褐	x	x				✓20	✓10	80.48 ~ 83.12 m: CH 堅硬で粘り率見化の著しい。割れ目には粘り物 は分布しない。 中層割れ目の多く、露度の低い割れ目は一部に分布 有り程度。 全体で7~8%の暗緑色鉱物(緑泥石)が品出し ている。 石英の白濁化は殆んど認められない。 81.10 ~ 81.35 m: 7~8%の斑点状に200μm程度の 灰褐色を調べる。交代は伴わない。
	81.5				b	III	β	β	2		CH	
82	82.2		Gp	7.5YR 1/2 灰褐	✓	✓	✓			✓68	✓45	82.10 ~ 82.30 m: 珪化変質が約7~10%の斑点状 ~10%程度の石英が品出し上層部は珪化硬質と なる。 82.72 ~ 82.86 m: 0.7mの露度の低い割れ目と含む
	82.5				b	III	β	β	2		CH	
83	83.12		Gp	7.5YR 1/2 灰褐	✓	✓	✓	δ	3			83.12 ~ 83.79 m: CL 粘り物、200μm割れ目の多く、割れ目には珪化の進行。 200μm程度の石英が品出し上層部は珪化硬質と なる。 83.46 m: 珪化の割れ目と多数の硬質の粘り物と殆んど 分布する。
	83.46				b	IV	β	β	2		CL	
84	83.79		Gp	7.5YR 1/2 灰褐	x	x				✓11	✓11	83.79 ~ 84.43 m: CM 堅硬 84.35 ~ 84.30 m: 10~15割れ目の200μm程度の珪化硬質と 粘り物と分布する。 一部は粘り物と分布する。露度の低い2-3割れ目と含む （2割）。
	84.3				b	IV	β	β	2		CM	
85	84.61		Gp	7.5YR 1/2 灰褐	✓	✓	✓	γ	2			84.43 ~ 84.61 m: CL 珪化「C」粘り物、多数割れ目と200μm程度の珪化硬質、粘り物 84.61 ~ 85.50 m: CL 珪化「C」粘り物 一部割れ目には珪化の進行部分がある。 石英の白濁化は一部
	85.5				c	V	δ	δ	3		CL	
85	85.5		Gp	7.5YR 1/2 灰褐	✓	✓	✓			✓12	✓12	

調査名

孔番・深度 H27B-2 (85 ~ 90)

観察日 H27 7/22, 26

基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 85 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分					最大コア長	岩級区分	破砕度区分	記事・破砕性状・詳細スケッチ等
				割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化	変質				
05	85.24		Gp	✓	✓	✓				C2	<p>85.15m, 50°幅5%軟弱な粘土状土にむ。</p> <p>85.24~85.35m 砂化土の層にむ。40°前後の割れ目残存</p> <p>85.50~85.58m: D 砂化土の層にむ。</p> <p>85.58~85.63m: HJ 85.58~85.63m: HJ</p> <p>85.63~85.64m: Hc-2 85.64~85.76m: HJ</p> <p>85.76~87.47m: C2 87.47~87.90m: CH 87.90~88.38m: C2 88.38~88.43m: HJ 88.43~88.92m: Hc-2 88.92~89.00m: HJ 89.00~89.26m: D</p> <p>89.26~89.92m: HJ 89.92~90.00m: Hc-2</p>	
	85.35			✕	✕	✕				D		
	85.50			✓	✓	✓				C2		
	85.58			✓	✓	✓				D		
	85.63			✓	✓	✓				D		
06	85.64		Gp	✓	✓	✓				D	<p>85.64~85.76m: HJ</p> <p>85.76~87.47m: C2 87.47~87.90m: CH 87.90~88.38m: C2 88.38~88.43m: HJ 88.43~88.92m: Hc-2 88.92~89.00m: HJ 89.00~89.26m: D</p> <p>89.26~89.92m: HJ 89.92~90.00m: Hc-2</p>	
	85.76			✓	✓	✓				D		
	86.52			✓	✓	✓				C2		
	87.47			✓	✓	✓				CH		
	87.90			✓	✓	✓				C2		
05	87.90		Gp	✓	✓	✓				C2	<p>87.90~88.38m: C2 88.38~88.43m: HJ 88.43~88.92m: Hc-2 88.92~89.00m: HJ 89.00~89.26m: D</p> <p>89.26~89.92m: HJ 89.92~90.00m: Hc-2</p>	
	88.38			✓	✓	✓				D		
	88.43			✓	✓	✓				C2		
	88.92			✓	✓	✓				D		
	89.00			✓	✓	✓				D		
09	89.26		Gp	✓	✓	✓				D	<p>89.26~89.92m: HJ 89.92~90.00m: Hc-2</p>	
	89.92			✓	✓	✓				D		
	90.00			✓	✓	✓				D		
	90.00			✓	✓	✓				D		
	90.00			✓	✓	✓				D		

調査名

孔番・深度

H27 B-2 (90 ~ 95)

観察日

H27 7/21 7:22 9/2 8/4

基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 90 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分						最大コア長	岩級区分	破砕度区分
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化	変質			
	90.45			7.5YR 4/2 灰褐色	√ d	√ VI	√ E	ε				
	90.81			7.5YR 4/3 灰褐色					3			
	91.00				√ c	√ E	δ					
	91.69				√ d	√ VI	√ E		4			
	92.00		Gp		√ c	√ IV	√ C	δ				
	92.76											
	93.00				x	x			3			
	94.00			7.5YR 6/4 灰褐色	√ c	√ V	√ C	γ				
	94.29				√ III	√ B	β-2		10			
	94.80								10			
	94.89								12	CH		

90.94 ~ 91.69 m : D

- 割目部に風化・浸出・砂状化部あり。粘土 (20% 程度) 混入は 5~20% の程度。割目部は、固結部状部と基岩との境界部。急傾斜部は、滑り部。90.81 m 以降は浸出・砂状化部と割目部の大半は砂状化部。割目の一部は 70° 程度。30° 程度。
- 90.50 m 60° 厚 2~3% の石英脈あり。
- 91.47 m 程度は、浸出部と砂状化部との境界部。一部はマロン酸を含み、黒褐色に着色。
- 91.04 ~ 91.20 m 割目の厚 1.7% の石英脈を伴った砂状化部。一部は、前部とマロン酸と後部は砂状化部。20° 程度。
- 91.60 m 以降は、3~5% 程度の石英脈を伴った砂状化部。一部は、浸出部と砂状化部との境界部。一部はマロン酸を含み、黒褐色に着色。

91.69 ~ 91.76 m : Hc-1

- 51° 上端は浸出部、下端は連続的に連続。砂状化部と浸出部との境界部。割目部は、浸出部と砂状化部との境界部。割目の一部は、浸出部と砂状化部との境界部。厚 3~4% 程度。

91.70 ~ 91.72 m : Hb

- 上端 51° 連続的に、下端 53° 連続的に連続。砂状化部と浸出部との境界部。割目部は、浸出部と砂状化部との境界部。厚 2~3% 程度。

91.72 ~ 91.76 m : Hj

- 上端 53° 連続的に、下端 95° 連続的に連続。砂状化部と浸出部との境界部。割目部は、浸出部と砂状化部との境界部。厚 2~3% 程度。

91.76 ~ 94.80 m : Cl

- 割目部は、浸出部と砂状化部との境界部。割目の一部は、浸出部と砂状化部との境界部。厚 2~3% 程度。
- 93.00 m 以降は、浸出部と砂状化部との境界部。割目の一部は、浸出部と砂状化部との境界部。厚 2~3% 程度。
- 92.07 m の 10% 程度の石英脈を伴った砂状化部。割目部は、浸出部と砂状化部との境界部。厚 2~3% 程度。
- 92.18 ~ 92.24 m 44° 割目部は、浸出部と砂状化部との境界部。割目の一部は、浸出部と砂状化部との境界部。厚 2~3% 程度。
- 92.65 m 55° 割目部は、浸出部と砂状化部との境界部。割目の一部は、浸出部と砂状化部との境界部。厚 2~3% 程度。
- 93.01 ~ 94.13 m 砂状化部と浸出部との境界部。割目部は、浸出部と砂状化部との境界部。厚 2~3% 程度。
- 94.26 ~ 94.38 m 5~10% の石英脈を伴った砂状化部。割目部は、浸出部と砂状化部との境界部。厚 2~3% 程度。

94.80 ~ 94.89 m : Ch

- 全体的に緑褐色に着色。

基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 95 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				変質	ROD	最大コア長	岩級区分	破砕度区分
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化					
05													
96									37	25			
05					259Y 5/1 緑灰	b	B	B	2			CH	
97			Gp						27	15			
05													
98	97.96								0	7		CM	
05	98.48												
99									0	9		CL	
05	99.44												
100	99.90 100.00				259Y 5/1 緑灰								

概ね新鮮で砂質、一部割れ目による風化が認められる
 現在物はほぼ新鮮割れ目と主成分の砂質、さらに割れ目状
 産物の認められる。

95.46m 砂質割れ目幅10~15%の褐色に硬さの
 に軟化、上層部に幅7%の砂質と脈状に分布する
 同脈は途中に尖滅した。

95.90~96.00m 割れ目幅10~20%の間隔に交互に軟化と
 褐化、硬工に軟化が砂質部は分布する。

96.60~96.63m 割れ目幅10%程度で褐色に、
 幅1~2%の砂質部は分布する。

97.36m 35°割れ目に深褐色の細砂質の分布、
 30cm下の97.65m 高層部の割れ目が多分布。

97.96~98.48m: CM
 割れ目と砂質部の砂化は認められる
 軟化部は砂質部と砂質部と交互に分布する

98.48~99.44m: CL
 割れ目と砂質部の砂化部が多分布
 軟化部は砂質部と砂質部と交互に分布する
 99.44m 以上は砂質硬質、以て厚く砂化部は認められる

99.16~99.45m 長さ10cm前後の塊状の砂質部は
 分布する。

99.44~99.90m は割れ目による風化と砂化部、
 岩質自身は上下位に比して砂化部。
 99.76m~99.90m 27°の割れ目と砂化部と交互に
 分布する一部硬工に分布する。

調査名

孔番・深度

H27 B-2 (100 ~ 105)

観察日

427
7/22/73

基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 100 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分					最大コア長	岩級区分	破砕度区分
					割れ目状態	コアの形状	コアの種さ	風化	変質			
05	100.52			2.5GY 5/1 緑灰	✓ c	✓ v	✓ B	β	2			✓ CL
101	101.32				✓ s	✓ v	✓ B	β	3	✓ 0	✓ 4	
05	102.05		GP		✓ b	✓ v	✓ B	β	2			✓ CM
05	102.41				✓ c	✓ v	✓ B	β	2			
05	102.71				✓ b	✓ v	✓ B	β	2			
103	102.94			2.5YR 5/2 灰褐	✓ c	✓ v	✓ B	β	3	✓ 0	✓ 4	
05	103.17				✓ c	✓ v	✓ B	β	2			✓ CL
05	103.56				✓ c	✓ v	✓ B	β	2			
104	103.70			2.5YR 7/2 暗黄灰	✓ c	✓ v	✓ B	β	2	✓ 0	✓ 6	
05	104.65				✓ c	✓ v	✓ B	β	2			
105	104.71			2.5YR 7/2 灰褐	✓ b	✓ v	✓ B	β	2	✓ 0	✓ 5	✓ CM

100.52 ~ 101.32 m. 割れ目の形状・形状化の進捗
割れ目の形状・形状化の進捗「c」主体で部分的に「v」の
分布。風化の進捗はβ。
100.84 ~ 100.87 m, 101.23 ~ 101.32 m 101.32 m 割れ目
の形状化の進捗。中々 ~ 10% 割れ目と並に「砂状化」
呈す。

101.32 ~ 102.05 m: CM
割れ目形状: 換在物の分布呈す。
一部の割れ目の低い割れ目分布呈す。

102.05 ~ 102.94 m: CL
102.170 m 割れ目の形状化「c」主体で「v」の分布。
102.70 m 以上は「v」の形状化の進捗。
102.05 ~ 102.41 m. 約 10% 割れ目と並に「砂状化」の
低い割れ目分布呈す。
102.91 ~ 102.94 m. 割れ目の形状化「c」主体で「v」の分布。
1 ~ 3% 割れ目と並に「砂状化」の分布呈す。

102.94 ~ 103.17 m. 20 ~ 30% 割れ目の形状化
の進捗呈す。割れ目の形状化「c」主体で「v」の分布。
103.17 ~ 103.70 m. 割れ目の形状化の進捗換在物の
分布は認めらる。一部の割れ目の低い割れ目
分布呈す。

103.70 ~ 104.65 m. 形状化の進捗 割れ目の形状化の進捗
の進捗呈す。
割れ目の形状化の進捗 2% 割れ目の形状化の進捗の分布呈す。

104.65 ~ 104.71 m: CM
104.65 ~ 104.69 m 割れ目の形状化の進捗換在物の分布呈す。

調査名

孔番・深度 H27B-2 (105 ~ 110)

観察日 H27/22

基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 105 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分					最大コア長	岩級区分	破砕度区分	記事・破砕性状・詳細スケッチ等
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化	変質				
05													104.14 ~ 104.19 m 上下端均 40% 割れ目に回らず 稀に砂粒を中 2-3% 含む。下部 下端面の白色粘土の層に付着。上部は全体の 0.5% 以下に微細石英粒を点状含む。
106					b	IV	B	β	2	24	14	CM	105.70 ~ 105.83 m 割れ目の発達。中 20-30% の割れ 目あり。割れ目面には砂粒粘土に付着。上部は 120 米尺 の層面である。
05													106.21 ~ 106.81 m 中層割れ目の多し。上部層は高く 下部層は低く。上部層は砂粒・粘土に付着。下部層は 砂粒に付着。割れ目代に砂粒。
107			Gp	25YR 6/2 灰褐色	*	*	*	*	*	17	17		107.68 ~ 107.73 m 割れ目の発達。中 10-20% の割れ目 あり。割れ目面には砂粒粘土に付着。上部は 120 米尺 の層面である。
05	107.75				b	IV	B	β	2			CZ	107.15 ~ 107.62 m CZ 割れ目の中 3-5% の割れ目あり。砂粒・粘土 に付着。上部層は砂粒・粘土に付着。下部層は 砂粒に付着。割れ目代に砂粒。上部は砂粒粘土に付着。下部は 砂粒に付着。
108										14	14		107.60 ~ 115.99 m CM 上部層は砂粒。割れ目あり。 114.60 m ~ 114.86 m 間には 10-30% 間隔程度の 層厚度の低い「中層割れ目」も含まれる。 下部層は砂粒。割れ目代に砂粒と粘土を含む。
05	107.62				b	IV	B	β	2			CM	
109										0	6		108.57 ~ 108.60 m 40% 割れ目に幅 1% 程度 の砂粒あり。上部層は砂粒・粘土に付着。下部層は 砂粒・粘土に付着。
05													
110										0	5		

115 90

調査名

孔番・深度 H27 B-2 (110 ~ 115)

観察日

H27 7/22 7/23

基盤岩コア観察カード

記事・破碎性状・詳細スケッチ等

標尺 110 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分					ROD	最大コア長	岩級区分	破碎度区分
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化	変質				
	05												
111										✓ 0	✓ 9		
	05												
112			Gp ↓		7.5FR Fr揚 ✓	6 ✓	14 ✓	B β ✓	2	11 ✓	11 ✓	CM ✓	
	05												
113										✓ 0	✓ 6		
	05												
114										✓ 0	✓ 9		
	05	114.37			2.5FR 緑灰 ✓								
115										✓ 0	✓ 9		

110.70 ~ 112.41 m 白色の「片麻岩割目」及び「片麻岩」の存在、
110.70 m 割目化はなし。

111.37 m 7.5 ~ 8.0 m 割目化はなし、112.41 m 砂化は
なし、変質が30%割目化はなし。

112.41 ~ 112.44 m、50%前後の割目化はなし、片麻岩化、
変質はなし。

113.03 ~ 113.07 m、白色の「片麻岩割目」が5 ~ 10%の間隔で
細かく分布。変質度の低いが含まれる。

114.37 ~ 115.70 m、緑色系色調に変化する。

114.65 m、80 ~ 85% 割目化の一部は変質はなし、厚さ2.5 ~ 7.0
cmの暗緑色粘土が2.5 ~ 12.5 cm 分布。

調査名

孔番・深度

H27B-2 (115 ~ 120)

観察日

H27
7/22 7/3 8/6

基盤岩コア観察カード

記事・破碎性状・詳細スケッチ等

標尺 115 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分					最大コア長	岩級区分	破碎度区分	
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化	変質				ROD
05	115.33			2.5GY 5/1 緑灰	✓ b	✓ IV	✓ β	β	2	✓ 0	✓ P	CM	<p>115.33 ~ 115.70 m: 暗緑色珪物(緑泥石)のp 1~2% 斑状地帯に幅1%脈状に分布。特に断層に分布が多い。</p> <p>115.70 m 以下: 橙色の正長石の多量。全体の色調が棕色に変化。</p>
116	115.70			2.5YR 7/4 R30a 黄	✓ c	✓ V	✓ c	β	3	✓ 0	✓ P	CL	<p>115.99 ~ 116.49 m: CL 割れ目が細く分布。f 10~30% 全体に分布している。 割れ目の多さは幅1~3%にわたって細断片化している。</p> <p>116.10 ~ 116.27 m: 石英の結晶が多量。全体が緻密である。</p>
05	116.49			2.5YR 6/2 灰褐	✓ b	✓ IV	✓ β	β	2	✓ 0	✓ P	CM	<p>116.49 ~ 117.47: CM 珪物の一部が割れ目が多量。一部は幅1~2%にわたって一部は断層に幅2%にわたって分布している。</p> <p>注: 断層交差部の一部はf 5~10%程度に細断片化が分布している。</p>
117	117.20		✓ Gp	2.5YR 6/2 灰褐	✓ b	✓ IV	✓ β	β	2	✓ 0	✓ P	CM	<p>117.20 ~ 118.10: 割れ目の幅2%に珪物や暗緑色珪物脈(緑泥石)が断続的に分布する。この層全体の10%は弱く風化した珪物化している。石英は伴っていない。</p>
05	118.10			2.5YR 7/4 黄	✓ b	✓ IV	✓ β	β	2	✓ 0	✓ P	CM	<p>118.12 ~ 118.10: 30°断層と70~80°断層が交差し、その一部はf 5~10%程度に断片化している。砂化や粘土化は伴っていない。</p> <p>118.23 ~ 118.42: 20~30°の断層が割れ目のf 10~20%の間隔で同方向に分布。一部は断層の傾斜に従って割れ目状に分布している。</p>
118	118.47			2.5YR 6/2 灰褐	✓ b	✓ IV	✓ β	β	2	✓ 0	✓ P	CM	<p>118.47 ~ 119.47: 割れ目の幅1%に暗緑色珪物脈(緑泥石)が東西にf 0.5%以下の微細な変質帯を伴う。</p>
05	119.47			2.5YR 7/2 明黄灰	✓ b	✓ IV	✓ β	β	3	✓ 0	✓ P	CL	<p>119.47 ~ 120.00: CL 30~40°断層のf 10~15%の間隔に1~3cmの間隔で分布している。割れ目のf 1%に砂化が伴っている。</p> <p>119.75 ~ 119.80: 正長石のf 1%以下の結晶が断層に脈状に分布している。</p>
119	119.87			2.5YR 6/2 灰褐	✓ b	✓ IV	✓ β	β	2	✓ 0	✓ P	CM	
05	119.97			2.5YR 6/2 灰褐	✓ b	✓ IV	✓ β	β	2	✓ 0	✓ P	CM	
120	120.00			2.5YR 6/2 灰褐	✓ b	✓ IV	✓ β	β	2	✓ 0	✓ P	CM	

調査名

孔番・深度

H278-2 (120 ~ 125)

観察日

H27
7/23 9/6

基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 120 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分					最大コア長	岩級区分	破砕度区分	記事・破砕性状・詳細スケッチ等
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの種さ	風化				
	05	120.53 120.58 120.63 120.65									<p>堅硬 30~50°割れ目同一方向に分布する。 白筋状の中層割れ目も同様に、ハニシ割れ目も分離し多い。割れ目は同一化している。 割れ目状の物は分布しない。</p> <p>● 120.63 ~ 120.65m : 破砕帯 (主軸断面 120.65m)</p> <p>● 120.63 ~ 120.65m : Hb 上部は32°の湾曲して、下部は2°の連続的に連続。約3%の石英粒、約3~10%の赤褐色の鉄質土壌を認め、鉄質粘土状。色調は黄褐色(2.5R 4Y)。厚さ15~25%。</p> <p>● 120.65m : Hc-1 32°の下部は連続的に連続。石英粒、赤褐色の鉄質土壌を認め、鉄質粘土(2.5R)。色調は黄褐色(2.5R 4Y)。厚さ1~3%。</p> <p>● 120.65 ~ 121.03m : CM 堅硬、5~10°割れ目も同一方向に分布する。 上部は鉄泥状の赤褐色の鉄質土壌を認め、赤褐色の鉄質土壌を認め、鉄質粘土(2.5R)。色調は黄褐色(2.5R 4Y)。</p>	
	05	121.03									<p>● 121.03 ~ 122.23m : CH 堅硬、割れ目少く、柱状~長柱状(75~200~200以上) : P.0.3 約1~3%の暗緑色の鉄泥状の鉄質土壌を認め、鉄質粘土(2.5R)。色調は黄褐色(2.5R 4Y)。</p>	
	05	122.23 122.42									<p>● 122.23 ~ 122.42m : CL 上部は10~15°の湾曲して、下部は2°の連続的に連続。約10%の赤褐色の鉄質土壌を認め、鉄質粘土(2.5R)。色調は黄褐色(2.5R 4Y)。</p> <p>● 122.42 ~ 122.97m : CM 堅硬、割れ目も、一部はハニシ割れ目も分離し多い。中層割れ目も分離し多い。鉄泥状の赤褐色の鉄質土壌を認め、鉄質粘土(2.5R)。色調は黄褐色(2.5R 4Y)。</p>	
	05	122.97									<p>● 122.97 ~ 133.41m : CL 堅硬、日長の変質の赤褐色の鉄質土壌を認め、鉄質粘土(2.5R)。色調は黄褐色(2.5R 4Y)。 割れ目も同一方向に1~5cmの間隔に分布する。 割れ目状の物はほとんど分布しない。</p>	
	05	133.41									<p>● 133.41 ~ 125.38m : CM 一部は赤褐色の鉄質土壌の中層割れ目も分離し、ハニシ割れ目も分離し、鉄質粘土(2.5R)。色調は黄褐色(2.5R 4Y)。 約15%の暗緑色の鉄泥状の鉄質土壌を認め、鉄質粘土(2.5R)。色調は黄褐色(2.5R 4Y)。</p>	
	05	124									<p>● 124.30m 割れ目も同一方向に分布する。割れ目も同一方向に分布する。割れ目も同一方向に分布する。</p>	

調査名

孔番・深度

H27 B-2 (125 ~ 130)

観察日

H27 7/25 9/4 9/6

基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 125 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長	岩級区分	破砕度区分	備考
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
	125.00				✓	✓	✓	β	2		CM	125.00~125.38m: 5m 節柱の 中層割れ目 0.5~1.0cm, 同層と同位の 1/2~1cm 割れ目 連続する。
	125.38					✓	✓	β	2		CL	125.38~125.70m: CL 最厚度 5mm 程度 節柱の中層割れ目 0.5~1.0cm 程度の 10~20% 程度 分布。1/2~1cm 割れ目 連続。割れ目 0.5~1.0cm 程度 節柱の中層割れ目。 125.38~125.70m 節柱の中層割れ目 10~20% 程度 3~5% の 硬質細粒状部。 粘土、砂は伴わない。
	125.70				✓	✓	✓	β	2		CM	125.70~126.25: CM 一部 最厚度 0.5cm 節柱の中層割れ目を含む。 割れ目 挟有物は分布する。
	126.25				✓	✓	✓	β	2		CM	
	126.25				✓	✓	✓	β	2		CL	126.25~127.41m: CL 一部 50~60° 割れ目 0.5~1.0cm 程度 節柱の中層割れ目 0.5~1.0cm 程度。 粘土、砂は 2~3% の 程度、互層 程度 粘土は 10~20% 程度。 硬質部 節柱の中層割れ目 10~20% 程度 (2.5YR 6/2) 程度。 細粒部 節柱の中層割れ目 10~20% 程度 (2.5YR 6/2) の 色調で、 全体は 後者色調の 主群。
	126.97				✓	✓	✓	β	2		CL	127.00m 以下は 挟有物は分布する。
	127.00		Gp		✓	✓	✓	β	2		CL	
	127.41				✓	✓	✓	β	2		CL	
	127.41				✓	✓	✓	β	2		CL	127.41~127.48m: 石灰質帯 (主断面 127.41m) 127.41m: Hc-1 50° 以下端部 連続的に 連続。石灰質、節柱は 含まれる 軟弱粘土 (0.5%)。色調は 灰赤 (10YR 6/1)。厚さ 0.5~1cm。 127.41~127.48m: HJ 上部 50° 連続的に 連続。下部は 50~60° 湾曲して 連続。φ=5~7% 程度。 節柱は 10~20% 程度 節柱の中層割れ目 10~20% 程度 節柱の中層割れ目 0.5~1.0cm 程度。 127.41~127.48m 節柱の中層割れ目 10~20% 程度 節柱の中層割れ目 0.5~1.0cm 程度。 色調は 灰赤 (10YR 6/1)。厚さ 40~45% 程度。
	127.48				✓	✓	✓	β	2		CL	127.48~128.82m: CL 40~60° 割れ目 主群 一部 20~30° 程度 節柱の中層割れ目 0.5~1.0cm 程度。 粘土は 10~20% 程度。
	128.82				✓	✓	✓	β	2		CL	127.82~127.83m: 上部 60°、下部 61° 割れ目 同様に、φ=2~3% 程度。 軟弱粘土 含まれる 節柱の中層割れ目 0.5~1.0cm 程度 節柱の中層割れ目 0.5~1.0cm 程度。 粘土は 10~20% 程度。
	128.87				✓	✓	✓	β	2		CL	128.82~128.97m: 石灰質帯 (主断面 128.87m) 128.82~128.87m: HJ 上部 30° 節柱の中層割れ目 0.5~1.0cm 程度 節柱の中層割れ目 0.5~1.0cm 程度。 主断面に 平行に 斜交に 割れ目 0.5~1.0cm 程度 節柱の中層割れ目 0.5~1.0cm 程度。 粘土は 10~20% 程度。全体は 20~30° 程度 節柱の中層割れ目 0.5~1.0cm 程度。 色調は 灰赤 (2.5YR 6/2)。厚さ 50~90% 程度。 128.87~128.88m: Hc-2 63° 以下端部 連続的に 連続。φ=3% 程度 石灰質 節柱は 20% 程度 節柱の中層割れ目 0.5~1.0cm 程度。 色調は 灰赤 (5YR 6/2)。厚さ 3~5% 程度。 128.88~128.97m: HJ 上部 63°、下部 62° 連続的に 連続。下部は 62% 程度 節柱の中層割れ目 0.5~1.0cm 程度。 石灰質 節柱の中層割れ目 0.5~1.0cm 程度。60~70° 程度 節柱の中層割れ目 0.5~1.0cm 程度 節柱の中層割れ目 0.5~1.0cm 程度。 節柱の中層割れ目 0.5~1.0cm 程度 節柱の中層割れ目 0.5~1.0cm 程度。粘土、砂は 0.5~1.0cm 程度。 色調は 灰赤 (2.5YR 6/2)。厚さ 60% 程度。
	128.97				✓	✓	✓	β	2		CL	128.97~129.95m: CL 128.97~129.95m: CM
	129.95				✓	✓	✓	β	2		CM	

調査名

孔番・深度

H7B-2 (130 ~ 135)

観察日

147
7/23 7/4, 8/5, 9/6

基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 (30 (m))	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分				最大コア長	岩級区分	破砕度区分
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ			
130	05	130.79	Gp	25YR 7/1 明褐灰	✓ b	✓ IV	✓ B	Y 2		CM
	05	131.79		10YR 7/2 灰褐色	✓ c	✓ V	✓ C	δ 2		Cc
	05	131.95		25YR 7/1 明褐灰	✓ c	✓ V	✓ C	Y 2	✓ 0	✓ 3
132	05	132.09	D	25YR 7/1 明褐灰	✓ c	✓ V	✓ E	δ 3		D
	05	132.24		10YR 7/2 灰褐色	✓ c	✓ V	✓ E	δ 2		D
	05	132.49		25YR 7/1 明褐灰	✓ c	✓ V	✓ E	δ 2		D
133	05	133.76	D	25YR 7/1 明褐灰	✓ c	✓ V	✓ E	δ 2		D
	05	133.80		10YR 7/2 灰褐色	✓ c	✓ V	✓ E	δ 3		D
	05	133.92		25YR 7/1 明褐灰	✓ c	✓ V	✓ E	δ 2		D
134	05	134.19	Gp	25YR 7/1 明褐灰	✓ c	✓ V	✓ E	δ 3		Cc
	05	134.23		10YR 7/2 灰褐色	✓ c	✓ V	✓ E	δ 2		D
	05	134.33		25YR 7/1 明褐灰	✓ c	✓ V	✓ E	δ 3		Cc
135	05	134.55	D	25YR 7/1 明褐灰	✓ c	✓ V	✓ E	δ 3		D
	05	134.79		10YR 7/2 灰褐色	✓ c	✓ V	✓ E	δ 3		D
	05	135.00		25YR 7/1 明褐灰	✓ c	✓ V	✓ E	δ 3		D

下端部より一部は割れ目径が約1.5%の程度で、上部は約1%程度に減少する。

130.79 m: 0° E: 北北東向き約50°斜傾角で幅1~3%程度の割れ目。粘土質の硬質。下部は割れ目径が約1%程度に減少する。

131.79 ~ 131.95 m: Cc
割れ目径は約0.5%程度の程度で、上部は約1%程度に減少する。下部は約1%程度の程度に減少する。

131.95 ~ 132.09 m: D
風化の程度は約1%程度。粘土質の硬質。上部は約1%程度の程度に減少する。下部は約1%程度の程度に減少する。

132.09 ~ 132.24 m: Cc
一部は割れ目径が約1%程度の程度に減少する。下部は約1%程度の程度に減少する。

132.24 ~ 132.49 m: D
約1%程度の程度に減少する。下部は約1%程度の程度に減少する。

132.49 ~ 133.76 m: Cc
20~30°と60~70°割れ目の変質(割れ目径が約1%程度)。

133.76 ~ 133.92 m: Hc-1
40° E: 下端部は約1%程度の程度に減少する。上部は約1%程度の程度に減少する。

133.92 ~ 134.19 m: Hc-1
40° E: 下端部は約1%程度の程度に減少する。上部は約1%程度の程度に減少する。

134.19 ~ 134.33 m: Hc-1
40° E: 下端部は約1%程度の程度に減少する。上部は約1%程度の程度に減少する。

134.33 ~ 134.55 m: Hc-1
40° E: 下端部は約1%程度の程度に減少する。上部は約1%程度の程度に減少する。

134.55 ~ 134.79 m: Hc-1
40° E: 下端部は約1%程度の程度に減少する。上部は約1%程度の程度に減少する。

134.79 ~ 135.00 m: Hc-1
40° E: 下端部は約1%程度の程度に減少する。上部は約1%程度の程度に減少する。

D: 1%以下 (粗粒部)

調査名

孔番・深度 H27 B-2 (135 ~ 140)

観察日 H27 7/23 24/26/26

基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 135 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長	岩級区分	破砕度区分	コア↑
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
	135.34		Gp	c	✓	✓	✓	δ	3			<p>134.15~134.19m: Hc-1 75°以下端の直線的に連続。石英粒端片10倍ほど含まれる 軟質粘土(10%)。下層側はφ2.5%以下の交錯した点在砂。 色調は上層側・粘・砂灰(2.5G4%)、中央・明粘・砂灰(2.5G4%)、 下層・暗粘・砂灰(2.5G4%)で3色9病状の模様を呈す。 厚220μm 19</p> <p>134.21~134.23m: Hc 上層75°と直線的に、下層は70°破砕した砂の不明(50%程度 程度)。φ5~20% 斜状に分布。剖断面は圧縮色粘土 の付着した「粗粒流石片状」を呈す。推定20。 色調は粘・砂灰(2.5G4%)、厚300μm以上。</p> <p>134.23~134.27m: Cc 粗粒流石片(10%)下層側侵入堆積直下部で20。 剖断面はφ5~10% 粘化10%程度分布。 134.23~134.33m, DcとGpの混在した層を呈す。色は緑褐色。 134.33~134.34m: D 土質性φ10% 細砂状の分布。</p> <p>134.39~134.65m: Cc 硬「c」を主体とした剖断面を呈す。 - 硬「B」は上層の135.34~136.50mに小分布 一部は密度が低く中層部(40%)含まれる。 - 硬「B」は剖断面に風化の痕跡がφ5~10%の 分布を呈す。砂状の分布は136.50~136.64m、137.44 ~137.60m、139.07~139.09mに3.7長、1.5cm前後 の分布がみられる。 - 136.40m以下はφ2.5%の暗緑色、緑褐色斑点の分布がみられる。 - 136.54m、35°傾、10~15cm 粗粒流石片状 φ5%前後の砂状の分布。両境界部も含まれる。粘土は 付着する。</p> <p>137.44~137.53m: φ5~10% 硬砂状の細砂状分布。137.53 ~137.60mは粘・砂灰の分布がみられる。</p> <p>137.68m: 色調が変化。 137.68m以下は黄褐色帯の、20%の長石砂状の 分布。137.68m以下は黄褐色帯の、20%の粘 土を呈す。推定20。</p> <p>138.10~138.30m: 剖断面の一部は砂状化、厚1~2%の 硬砂粘土の分布がみられる。</p> <p>138.75m: 80°剖断面は厚2.1% 粘砂状の分布。10%前後 138.87m: 30°剖断面は粘・砂灰。</p>
05											0	
136			Gp	c	✓	✓	✓	γ	2			<p>135.39~134.65m: Cc 硬「c」を主体とした剖断面を呈す。 - 硬「B」は上層の135.34~136.50mに小分布 一部は密度が低く中層部(40%)含まれる。 - 硬「B」は剖断面に風化の痕跡がφ5~10%の 分布を呈す。砂状の分布は136.50~136.64m、137.44 ~137.60m、139.07~139.09mに3.7長、1.5cm前後 の分布がみられる。 - 136.40m以下はφ2.5%の暗緑色、緑褐色斑点の分布がみられる。 - 136.54m、35°傾、10~15cm 粗粒流石片状 φ5%前後の砂状の分布。両境界部も含まれる。粘土は 付着する。</p> <p>137.44~137.53m: φ5~10% 硬砂状の細砂状分布。137.53 ~137.60mは粘・砂灰の分布がみられる。</p> <p>137.68m: 色調が変化。 137.68m以下は黄褐色帯の、20%の長石砂状の 分布。137.68m以下は黄褐色帯の、20%の粘 土を呈す。推定20。</p> <p>138.10~138.30m: 剖断面の一部は砂状化、厚1~2%の 硬砂粘土の分布がみられる。</p> <p>138.75m: 80°剖断面は厚2.1% 粘砂状の分布。10%前後 138.87m: 30°剖断面は粘・砂灰。</p>
05											0	
137	136.50		Gp	c	✓	✓	✓	γ	2			<p>135.39~134.65m: Cc 硬「c」を主体とした剖断面を呈す。 - 硬「B」は上層の135.34~136.50mに小分布 一部は密度が低く中層部(40%)含まれる。 - 硬「B」は剖断面に風化の痕跡がφ5~10%の 分布を呈す。砂状の分布は136.50~136.64m、137.44 ~137.60m、139.07~139.09mに3.7長、1.5cm前後 の分布がみられる。 - 136.40m以下はφ2.5%の暗緑色、緑褐色斑点の分布がみられる。 - 136.54m、35°傾、10~15cm 粗粒流石片状 φ5%前後の砂状の分布。両境界部も含まれる。粘土は 付着する。</p> <p>137.44~137.53m: φ5~10% 硬砂状の細砂状分布。137.53 ~137.60mは粘・砂灰の分布がみられる。</p> <p>137.68m: 色調が変化。 137.68m以下は黄褐色帯の、20%の長石砂状の 分布。137.68m以下は黄褐色帯の、20%の粘 土を呈す。推定20。</p> <p>138.10~138.30m: 剖断面の一部は砂状化、厚1~2%の 硬砂粘土の分布がみられる。</p> <p>138.75m: 80°剖断面は厚2.1% 粘砂状の分布。10%前後 138.87m: 30°剖断面は粘・砂灰。</p>
05											0	
138	137.44		Gp	c	✓	✓	✓	γ	2			<p>135.39~134.65m: Cc 硬「c」を主体とした剖断面を呈す。 - 硬「B」は上層の135.34~136.50mに小分布 一部は密度が低く中層部(40%)含まれる。 - 硬「B」は剖断面に風化の痕跡がφ5~10%の 分布を呈す。砂状の分布は136.50~136.64m、137.44 ~137.60m、139.07~139.09mに3.7長、1.5cm前後 の分布がみられる。 - 136.40m以下はφ2.5%の暗緑色、緑褐色斑点の分布がみられる。 - 136.54m、35°傾、10~15cm 粗粒流石片状 φ5%前後の砂状の分布。両境界部も含まれる。粘土は 付着する。</p> <p>137.44~137.53m: φ5~10% 硬砂状の細砂状分布。137.53 ~137.60mは粘・砂灰の分布がみられる。</p> <p>137.68m: 色調が変化。 137.68m以下は黄褐色帯の、20%の長石砂状の 分布。137.68m以下は黄褐色帯の、20%の粘 土を呈す。推定20。</p> <p>138.10~138.30m: 剖断面の一部は砂状化、厚1~2%の 硬砂粘土の分布がみられる。</p> <p>138.75m: 80°剖断面は厚2.1% 粘砂状の分布。10%前後 138.87m: 30°剖断面は粘・砂灰。</p>
05											0	
139	137.60		Gp	c	✓	✓	✓	γ	2			<p>135.39~134.65m: Cc 硬「c」を主体とした剖断面を呈す。 - 硬「B」は上層の135.34~136.50mに小分布 一部は密度が低く中層部(40%)含まれる。 - 硬「B」は剖断面に風化の痕跡がφ5~10%の 分布を呈す。砂状の分布は136.50~136.64m、137.44 ~137.60m、139.07~139.09mに3.7長、1.5cm前後 の分布がみられる。 - 136.40m以下はφ2.5%の暗緑色、緑褐色斑点の分布がみられる。 - 136.54m、35°傾、10~15cm 粗粒流石片状 φ5%前後の砂状の分布。両境界部も含まれる。粘土は 付着する。</p> <p>137.44~137.53m: φ5~10% 硬砂状の細砂状分布。137.53 ~137.60mは粘・砂灰の分布がみられる。</p> <p>137.68m: 色調が変化。 137.68m以下は黄褐色帯の、20%の長石砂状の 分布。137.68m以下は黄褐色帯の、20%の粘 土を呈す。推定20。</p> <p>138.10~138.30m: 剖断面の一部は砂状化、厚1~2%の 硬砂粘土の分布がみられる。</p> <p>138.75m: 80°剖断面は厚2.1% 粘砂状の分布。10%前後 138.87m: 30°剖断面は粘・砂灰。</p>
05											0	
140	137.68		Gp	c	✓	✓	✓	γ	2			<p>135.39~134.65m: Cc 硬「c」を主体とした剖断面を呈す。 - 硬「B」は上層の135.34~136.50mに小分布 一部は密度が低く中層部(40%)含まれる。 - 硬「B」は剖断面に風化の痕跡がφ5~10%の 分布を呈す。砂状の分布は136.50~136.64m、137.44 ~137.60m、139.07~139.09mに3.7長、1.5cm前後 の分布がみられる。 - 136.40m以下はφ2.5%の暗緑色、緑褐色斑点の分布がみられる。 - 136.54m、35°傾、10~15cm 粗粒流石片状 φ5%前後の砂状の分布。両境界部も含まれる。粘土は 付着する。</p> <p>137.44~137.53m: φ5~10% 硬砂状の細砂状分布。137.53 ~137.60mは粘・砂灰の分布がみられる。</p> <p>137.68m: 色調が変化。 137.68m以下は黄褐色帯の、20%の長石砂状の 分布。137.68m以下は黄褐色帯の、20%の粘 土を呈す。推定20。</p> <p>138.10~138.30m: 剖断面の一部は砂状化、厚1~2%の 硬砂粘土の分布がみられる。</p> <p>138.75m: 80°剖断面は厚2.1% 粘砂状の分布。10%前後 138.87m: 30°剖断面は粘・砂灰。</p>
05											0	
140	137.68		Gp	c	✓	✓	✓	γ	2			<p>135.39~134.65m: Cc 硬「c」を主体とした剖断面を呈す。 - 硬「B」は上層の135.34~136.50mに小分布 一部は密度が低く中層部(40%)含まれる。 - 硬「B」は剖断面に風化の痕跡がφ5~10%の 分布を呈す。砂状の分布は136.50~136.64m、137.44 ~137.60m、139.07~139.09mに3.7長、1.5cm前後 の分布がみられる。 - 136.40m以下はφ2.5%の暗緑色、緑褐色斑点の分布がみられる。 - 136.54m、35°傾、10~15cm 粗粒流石片状 φ5%前後の砂状の分布。両境界部も含まれる。粘土は 付着する。</p> <p>137.44~137.53m: φ5~10% 硬砂状の細砂状分布。137.53 ~137.60mは粘・砂灰の分布がみられる。</p> <p>137.68m: 色調が変化。 137.68m以下は黄褐色帯の、20%の長石砂状の 分布。137.68m以下は黄褐色帯の、20%の粘 土を呈す。推定20。</p> <p>138.10~138.30m: 剖断面の一部は砂状化、厚1~2%の 硬砂粘土の分布がみられる。</p> <p>138.75m: 80°剖断面は厚2.1% 粘砂状の分布。10%前後 138.87m: 30°剖断面は粘・砂灰。</p>
05											0	

調査名

孔番・深度

H27 B-2 (140 ~ 145)

観察日

H27
7/24 7/26

基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 140 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分					ROD	最大コア長	岩級区分	破砕度区分
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化	変質				
	140.04				△	▽	△	○	3				<p>140.04~140.65 167は厚210cmに起因の砂質粘板状部は分厚(20cm) 割れ目状に厚2~5%程度に4~3%の砂状の粘板状部割れ目と多量含む。割れ目は巻層度の低い「中層割れ目」の傾向が認められる。粘板状部割れ目は45°。</p> <p>141.10~141.17 40割れ目と砂状化。粘板10% 硬質粘板(硬工)と多量含む(2m)。</p> <p>141.96~142.23 互いに厚さ異なる60°と30°の割れ目と粘板の交互。粘板10% 粘板状部(硬工)と粘板一部厚さ1~2%程度に砂状化粘板状部を含む。</p> <p>142.81~143.70 割れ目間隔は上下位に比べ1/2程度に300~巻層度の低い割れ目中層割れ目と多量含む。</p> <p>143.57~143.70m 上端60°、下端70°割れ目状に粘板状化傾向。粘板色は呈黄色。粘板状化傾向に伴って粘板厚さ10%以下に粘板粘板黄砂状化。60°厚さ5~10% 粘板状化傾向に伴って。</p>
	05												
	141								5				
	05												
	142		GP	25%R 1/1 褐灰					5				
	05												
	142.81								4				
	05												
	143												
	05												
	144								7				
	05												
	144.90								6				
	145												

調査名

孔番・深度 H27 B-2 (145 ~ 150)

観察日 1972/7/26

基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 145 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分						最大コア長	岩級区分	破砕度区分		
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化	変質					
	05	145.65		ス5YR 明褐色	✓ c	✓ v	✓ c	Y 2		0	3	✓	C	
146	05				x	x				0	3	✓		145.65 ~ 146.26 m: D 大半は割れ目による風化の塊状。粘り砂状。径5-20 μm程度の新鮮な空の砂粒状。一部は少量の 白色の暗緑灰色粘土の脈状に分布。 145.74 ~ 146.00 m, 146.91 ~ 147.00 m は硬質「D」新成 147.01 ~ 148.01 m は硬質「C」粘土。中には 146.65 ~ 146.91 m: 深度2mに砂粒の割合が増加 146.91 ~ 147.50 m 硬質「D」新成主体。割れ目による砂状 粘土の分布割合が多い。 147.65 m: 55°割れ目に厚さ1.0-2.0cmの暗緑灰色緑泥石脈 12cm。砂状。粘土化。12cm。 147.91 ~ 148.01 m 硬質「C」と硬質「D」の層。割れ目による 粘土物は分布する。 148.26 ~ 148.19 m: C 上部50cm 下部50cm 両者120°同方向に割れ目。同方向。 148.68 m: 50°厚さ3cmの暗緑灰色粘土。粘土の緑泥石脈は10cm。 同脈は粘土物(10%)の存在を示す。 148.89 m: 厚さ1.0cm。割れ目に厚さ1.0cmの砂状粘土の分布。 149.19 ~ 149.69 m: D 割れ目による風化の塊状。粘り砂状。径5-10μmの新鮮 の硬質「D」の砂粒。砂粒状。粘り砂状。粘り砂状。粘り砂状。 粘土の割合は20%。白色粘土の分布。 下部の149.69 m 120°厚さ1cmの暗緑灰色粘土。粘土の 緑泥石脈12cm。 149.69 ~ 150.10 m: C 硬質「C」と「D」の層。粘土物。 149.69 ~ 150.22 m は硬質「C」と割れ目による砂状粘土の分布。
	05	147.81			x	x				0	4	✓		
148	05	148.01			✓ c	✓ v	✓ c	Y 3		0	4	✓		
	05	148.26			✓ c	✓ v	✓ c	Y 3						
	05	148.26			✓ c	✓ v	✓ c	Y 2						
149	05	148.26			✓ c	✓ v	✓ c	Y 2		0	6	✓	C	
	05	149.19			x	x								
	05	149.69			✓ c	✓ v	✓ c	Y 2						
150	05	149.69			✓ c	✓ v	✓ c	Y 3		0	5	✓	C	
	05	150.00		ス5YR 明褐色	✓ c	✓ v	✓ c	Y 3		0	5	✓	C	

調査名

孔番・深度

H27 B-2 (150 ~ 155)

観察日

H27
7/24 9/4

基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分					最大コア長	岩級区分	破砕度区分
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化			
0	150.00 150.22			2.5YR 6/1 褐炭	√ b	√	√	√	2		150.22 ~ 150.52 m : 上下より変質(硬土)に転化した。下部の150.52 ~ 151.40 m 幅は2% ~ 3% 程度の緑泥石炭。硬土を破壊した。
0.5	150.52			2.5YR 7/2 明褐炭	√ c	√	√	√	3		
151				2.5YR 6/1 褐炭	√ C	√	√	√	2	C2	150.52 ~ 152.10 m : 硬土。一部は割れ目により風化した。粗粒の風化は弱く、割れ目には粘土が充填されている。
0.5											150.52 m 以降は岩中に1~3% 暗緑色の斑点。これは割れ目の面に緑泥石炭が充填した。緑泥石炭の範囲は約2% 程度でその結晶化は低い。
0.5											151.40 ~ 151.60 m : 割れ目の一部は10% 程度の岩片風化に達。割れ目の面には硬土の付着物、付着物はない。
152	152.10 152.11 152.15		Gp		√	√	√	√	4	DV	152.10 ~ 152.15 m : 硬岩帯(主断面152.11 m) 152.10 ~ 152.11 m : Hj 上部60°, 下部18° 両方の断面に連続。主断面と垂直の割れ目が多く、15~10% 程度の硬土「D」の付着物。色調は灰色(5YR 6/2) 厚1~1.5 mm 152.11 m : Hc-2 60° 上下端で連続的に連続。1~2% の硬土、断面は約20% 程度の硬土(硬土)。厚1 mm 暗緑石。 152.11 ~ 152.15 m : Hj 上部60° で連続的に、下部55° で打って連続。1~2% の岩片帯(一部10%)。岩片間には軟化した粘土が充填された。色調は緑色(4.5Y 5/1) ~ 明褐色(2.5YR 7/2)。厚20 ~ 50 μm
0.5	152.51				√ c	√	√	√	2	C2	152.15 ~ 153.59 m : C2 風化の程度は硬土。割れ目が多く、15.51 m 以降は更に交差する割れ目。10~20% 程度の岩片が主体。 割れ目の一部は約1% 程度の硬土の付着物。153.30 ~ 153.47 m 緑泥石炭の付着。一部の割れ目には暗緑色の結晶化。
153				2.5YR 7/2 明褐炭							153.59 ~ 154.53 m : D 風化の割れ目により結晶化の増大。岩片間の割れ目は硬土の付着物。 154.00 m 以降は約3% の岩片と約1% の硬土の付着物に到達。 154.00 m 以降は約3% の岩片と約1% の硬土の付着物に到達。 154.00 m 以降は約3% の岩片と約1% の硬土の付着物に到達。
0.5	153.59 153.60 153.76			2.5YR 4/1 暗緑炭	√	√	√	√			154.00 ~ 154.53 m : H 154.00 m 以降は約3% の岩片と約1% の硬土の付着物に到達。下部は約3% の岩片と約1% の硬土の付着物に到達。
154				2.5YR 7/2 明褐炭							154.53 ~ 154.71 m : 硬岩帯(主断面154.59 m) 154.53 ~ 154.58 m : Hb 上部60°, 下部55° 両方の断面に連続。1~3% の硬土、1~10% 程度の硬土の岩片20~30% 程度の硬土。硬土は約1% 程度。中央の最上層の硬土は軟弱。色調は上部明褐色(5Y 7/2) 中央、下部暗褐色(5YR 7/2) 暗褐色(5YR 7/2) 暗褐色。厚40 ~ 50 μm
0.5	154.53 154.58 154.71				√	√	√	√	4	Hc-1 Hj	154.71 ~ 155.00 m : Hc-1 154.71 ~ 154.72 m : Hj
155	155.00				√	√	√	√	3		

調査名

孔番・深度

H27B-2(155~160)

観察日

4/27
7/24/26

基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 155 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分					最大コア長	岩級区分	破砕度区分
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化			
	155.00										
05				7.5YR 7/2 明褐色							
156	156.00				✓c	✓v	✓d	✓γ	3	✓0	✓5
05											
157			Gp	7.5YR 6/2 灰褐色						✓0	✓2
05											
158	157.61				x	x	x	x			
	157.89									✓0	✓4
05											
159				10GY 5/1 緑灰色	✓c	✓v	✓d	✓γ	3	✓0	✓3
05					✓c	✓v	✓d	✓γ	3	✓0	✓5
	159.74				x	x	x	x			
160	160.00				✓c	✓v	✓d	✓γ	3	✓0	✓5

154.50 m : Hc-1
 36° 上部は放射状、下部は近線的連続。φ1~2mm 石英粒
 と石膏(5%以内)を含む軟質粘土(6%以内)。色調は上下端側
 6° 褐色(7.5YR 6/2)、中央部(7.5YR 6/2)の偏状に割れ。
 厚さ 5mm。

154.50 ~ 154.71 m : Hc
 上部は36° 近線的、下部は65~80° 湾曲(放射状)連続。50~70°
 とくに放射状部(厚さ 5mm)は細かく片状化。放射状
 には幅(3mm)の明線状の緑灰色の軟質粘土(6%)、放射状
 には幅(1mm)の軟質粘土(6%)分布。全体は粘土
 液(10%)を伴っており、色調は放射状(7.5YR 7/4) ~
 明線状(10GY 5/1)、厚さ 5mm

154.71 ~ 155.00 m : D
 緑灰色(放射状)部(厚さ 2mm)
 155.00 ~ 162.00 m (孔底) : Cc
 割れ目は暗緑灰色の緑泥石と一致。
 特に、157.89 ~ 160.00 m は緑泥石と一致(色調は
 緑灰色に近し、厚さ 2~20% の放射状部(厚さ 2mm)と一致)。
 156.25 ~ 157.00 厚さ 8~8mm φ2~3% の放射状
 放射状の緑泥石と一致(厚さ 2mm)と一致。
 156.72 ~ 157.00 厚さ 1~10mm の放射状部
 φ1~2mm の放射状部(厚さ 10mm)と一致(上下位方向に連続)。
 下部は158.24 m まで、下部面は放射状と緑泥石と一致
 と一致。

158.00 ~ 158.20 m φ5~10mm の放射状部と放射状
 部(厚さ 2mm)と一致(厚さ 2mm)と一致。

159.06 ~ 159.33 m 割れ目は暗緑灰色の放射状部
 放射状部(厚さ 2~20mm)と一致。
 放射状部(厚さ 2mm)と一致(厚さ 160.00 m まで)と一致、

159.78 ~ 160.00 厚さ 1~10mm の放射状部(厚さ 2mm)
 放射状部。

調査名

孔番・深度

K278-2 (160 ~ 162)

観察日

H27
9/24 7/6

基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調 1600	細区分				ROD	最大コア長	岩級区分	破砕度区分
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
	160.13						γ					<p>160.00 ~ 161.68m 緑泥石化は部分的、一部の割れ目の浸透圧色は均一に浸透している。</p> <p>160.81m、70cm厚の5%白色粘土質(粘土)を有し、その上部と下部の厚さ1~3cmの固結した緑泥石化している。</p> <p>160.98 ~ 161.01m は 4 ~ 30% の粘土に浸透した粘土は各層の厚さ一部は粘土の層の厚さ1cm程度である。</p> <p>161.68m 以下は割れ目と均一に暗緑色の緑泥石化、割れ目の粘土の粘土の粘土に付着している。全体の40~50%と細かく砕けた粘土、粘土の浸透圧色と浸透圧の色は均一。</p> <p>(X区)</p>
0.5	160.50			2+YR 5/4 1520 橙		√	α	3				
161	160.75		GP			√	γ	3	0	3	C _L	
0.5	161.68					√	B	γ	3			
162				109Y 5/1 緑灰					0	4		

H24-B14-2

第四系コア観察カード

調査名					孔番	B14-2	観察日	2012 7/31	
標尺 (m)	深度 (m)	イベント・地層境界	スケッチ	マーカ-		地質名	色調	堆積構造・特徴等	
				火山灰物 土質化石 貝木片	○ r // □				
0			● ○			埋土		0 ~ 6.66 m : 埋土 (bk層)	
1			● ○					2.51R 5/6 明褐	0 ~ 3.47 m : 礫・シルト混入砂 中5~30mmの角~亜角礫と5~10%程度混入。 砂は粗~細粒砂と少量のシルトを含有不均質である。 礫種は花崗斑岩、安山岩(玄武岩)、石英と硬質。 稀に同化礫が混入する。 2.5mの混入位置は不均質で、中央部と多量部との差が認められる。
2			● ○						
3			● ○						
	3.47		● ○					3.47 ~ 3.93 m : 砂・シルト混入砂	
			● ○					N5/6 灰	柱状コアにて採取。硬質である。
	3.93		● ○					3.93 ~ 4.28 m : 珪石	
4			● ○					珪石。φ20~70mmの角礫主体	

bk層

スケッチ: 礫はクサリ ● 半クサリ ◐ 硬質 ○ 礫種は黒雲母花崗岩Gr, 花崗斑岩Gp, アプライトAp 等
境界 明瞭 — 不明瞭 - - - 亀裂は赤線, 角度, 条線等

第四系コア観察カード

2012

調査名		孔番	観察日				
		B14-2	7/31				
標尺 (m)	深度 (m)	イベント・地層境界	スケッチ	マーカ- ○ 灰物 r 山質 /// 炭土 □ 貝木	地質名	色調	堆積構造・特徴等
4	4.28				埋土	N4/0 R	4.28~6.66m: 細混り礫質砂 細~粗粒砂の不均質な砂に細礫の混入。 礫は中~30mmの亜角礫を主とし、礫含有率10~ 20%程度。風化礫の付着礫を混入。 礫種は花崗斑岩の至り、稀に安山岩礫の 混入あり。
5	5.13 5.19			✓	埋土	10YR 8/1 R	5.13~5.19m: 有機物混り砂 土質。砂は 中~粗粒砂で細中産化物を混入。至りに若干 有機質がある。
6	6.66				埋土	2.5YR 5/6 R	
7	6.82			✓	礫質砂	10YR 8/1 R	6.66~6.82m: 礫質砂 6.66~6.82m 少量の粗粒砂を混入し粗粒砂。少量の細解砕礫を混入 6.82~7.00m 細~粗粒砂の至り(7.43m以下は細中産化物を混入する)、 全体にφ2~5mmの細礫を混入する。細礫は角~ 亜角礫を主とする。礫種はGp, Ap, 及び石英カス等。 上部7.10m付近に石英細礫(φ5~10mm程度)を多く 混入する。炭化物も礫状に混入。 7.10m~7.50mの風化礫及び半風化礫混入。 7.50付近、未分解の植物混入する。 6.82~7.43m: 上部は細中産化物 下部は礫質となる。 7.70m付近炭化物を混入する。

bk層

6.66 m

bp層

スケッチ: 礫はクサリ ● 半クサリ ◐ 硬質 ○ 礫種は黒雲母花崗岩Gr, 花崗斑岩Gp, アプライトAp 等
境界 明瞭 — 不明瞭 - - - 亀裂は赤線, 角度, 条線等

第四系コア観察カード

調査名		孔番		観察日				
		B14-2		8/20/2				
標尺 (m)	深度 (m)	イベント・地層境界	スケッチ	マーカ- ○ 灰物 □ 炭質土 △ 頁岩 ◇ 化石 ■ 木片	地質名	色調	堆積構造・特徴等	
8	8.06				礫質砂	10YR 6/1	8.06~8.37m: 砂は石英、珪石主体で細~中粒砂。均質であるが、8.30m以下から若干の有機物が混入。 8.39~8.43m: 砂混り有機質シルト	
	8.11					褐灰		
	8.31					10YR 5/2		8.39~8.43m: 9.3m有機物混入 粗粒砂が主。8.40~8.45mに砂の粗粒方向に炭化木片が混入。
	8.37							
	8.53					10YR 5/1		8.53~8.63m: 45~50°傾斜で有機物および炭化木片が混入。粗粒砂を20%程度に混入。
	8.55							
	8.82					10YR 5/1		8.63m付近に粗粒砂の薄層は混入。 8.63~9.54m: 有機物混り砂
	9.00							
	9.10					10YR 5/1		8.63~9.54m: 有機物混り砂 粗粒砂を主とし、石英細礫を5%未満混入、少量の炭化物が混入
	9.11							
	9.26					10YR 5/1		9.10~9.26m: 有機物が富み、一部未分解の繊維が分布する。 9.13~9.15m間は極細粒砂(火山灰?)を薄層状に付す。下部は粒径中粗、砂質シルト~シル質砂状。
	9.30							
9.54	2.5Y 7/8	9.26~9.54m: 粗粒砂を主とするが不均質で、φ0.5~1cmの石英角礫が混入し、粘土分を少量~中位に混入する。また、炭化物片、未分解繊維も少量混入。						
9.64			黄					
10	10.50			砂礫	10YR 4/4	9.54~11.12m: 砂礫 φ2~50mmの花崗斑岩礫が主体。 基質は少量の粘土分を混入する粗~中粒砂 9.54~9.71mにφ1.7cm玉石混入 10.70~10.72m 細礫を薄層状には混入。		
	10.74				赤褐色			
	11.12				2.5Y 7/8			
	11.12				黄			
11	11.12			礫混り砂	5Y 8/2	11.12~12.09m: 礫混り砂 φ2~5mm石英角礫を5~10%程度混入する。 砂は粗~細粒砂が主で、少量のシルトが混入する。 11.40~11.42m 幅10mmの灰白色シルトは混入。 11.53~11.55m 幅15mmの灰白色シルトは混入。 11.66~11.99m: 2314		
	11.66				灰白			
	11.99				2314			
12	11.99			礫混り砂				

スケッチ: 礫はクサリ ● 半クサリ ◐ 硬質 ○ 礫種は黒雲母花崗岩Gr, 花崗斑岩Gp, アプライトAp 等
境界 明瞭 — 不明瞭 - - - 亀裂は赤線, 角度, 条線等

第四系コア観察カード

調査名		孔番	観察日				
		B 14-2	2012 P/2				
標尺 (m)	深度 (m)	イベント・地層境界	マーカ-	地質名	色調	堆積構造・特徴等	
			火山灰物 炭質土壌 化石 貝片 ○ r // r ⊙ □				
12	12.04			有機質混り砂	2.5YR 7/6 橙	<p>12.04~12.67m: 有機物混り砂 細砂~中砂を主とし、部分的にシルト質(有機物混り)となる。有機物は20~30°傾斜する。</p> <p>12.13m付近: 有機質シルトの薄層。 12.27~12.41m: 厚さ4cmの有機質シルト。 12.15~12.67m, 12.70~12.73m: 有機質シルトの薄層状の挟み。</p> <p>12.69~13.09m: 有機物混り砂質シルト シルト~中砂のみならず、全体に有機物が混入する。</p> <p>12.76~12.85m間: 石英斑岩の圓形礫φ2~4cmが主体となる。 12.85~13.09m間: 砂泥に粘土質で、下部は砂質粘土状である。 上部13.00m付近には有機物を多く含むが、下部に2mのみ、少なくなる。</p> <p>13.09~13.86m: シルト混り砂 細砂を主とする砂に、全体にシルトが混入する。 13.50m付近には色調変化。 13.17~13.60m付近 シルト~粘土分は10~20%混入する。</p> <p>13.40m付近、中5~7mmの石英礫を約5%混入。 13.60~13.80m付近、粒径の均一な細~微細粒砂になる。</p> <p>13.86~16.24m: 砂礫 φ2~40mm(最大330mm)の亜角~亜円礫を主とし、所々φ40~70mmの円~亜円礫が混入する。 石英礫は花崗斑岩の主体。礫含有率50~70%程度</p> <p>基質のシルトの混入する不均質な砂のみならず、 半クサリ: 硬質 = 1:1</p> <p>15.08~15.17m Ap 玉石。 15.42~15.50m 風化 Gp 玉石。 15.70~16.00m Gr 岩塊。</p>	
	12.69			有機物混り砂質シルト	10Y 3/2 黒		
	13.09			シルト混り砂	2.5Y 5/1 灰		
	13.30				2.5YR 7/6 褐		
	13.57				2.5Y 4/4 浅黄		
	13.80						
	13.86						
14		GP					BP層
15							
16		Gr					Csg 1層

スケッチ: 礫はクサリ ● 半クサリ ◐ 硬質 ○ 礫種は黒雲母花崗岩 Gr, 花崗斑岩 Gp, アプライト Ap 等
境界 明瞭 — 不明瞭 - - - 亀裂は赤線, 角度, 条線等

第四系コア観察カード

調査名		孔番	観察日			
		B14-2 (16-17)	8/3			
標尺 (m)	深度 (m)	イベント・地層境界 スケッチ	マーカ 火山灰物 炭質土貝化石 木片	地質名	色調	堆積構造・特徴等
16	16.24		○ r /// □	砂礫 Gp	暗褐 5YR 6/1 7.5R 16.64 5YR 8/1 R5	砂礫とGpの境界は、密着により、 246°傾斜を示す。 16.24m 花崗斑岩着岩 変質若い、軟質化好 全体に
						Csg1層 16.24m Gp

スケッチ: 礫はクサリ ● 半クサリ ◐ 硬質 ○ 礫種は黒雲母花崗岩Gr, 花崗斑岩Gp, アプライトAp 等
境界 明瞭 — 不明瞭 - - - - 亀裂は赤線, 角度, 条線等

調査名		孔番・深度		観察日								
		B14-2 (15 ~ 20)		8/3								
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分				ROD	最大コア長	岩級区分	破碎度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破碎性状・詳細スケッチ等
				割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化					
15												
16	16.24		Csg						16.24			16.24 Gp着岩 Gpの斑晶は中28mmの石英・長石を主とし、中2~5mmの黒雲母が混じる。石基は優白色である。
	16.54		Gp	d	VI	E	δ	3				・16.24~18.68 強風化・変質部。 全体に変質が認められ、主として、淡色絶帯の灰白色を呈する。 局部的に材質硬い所があるが、全体的に針貫入可能である。
17	17.20											・16.24~16.94m. 230~50°の割れ目跡が、1~3cm間隔で発達する。白色細粒物を充填した中1mm程度の隙間に、岩石組織を残している。①
	17.54			d	VI	E	δ	4				・16.94~18.0割れ目不明瞭となる。 17.30~17.58m 岩石組織不明瞭となる。 指圧で砂混じりシム状に崩れる。
18	18.04			d	VI	E	δ	4				・18.04~18.68m 割れ目沿いの変質が著しく、新鮮硬質部を塊状に残している。 250~70°及び70°程度の割れ目跡が認められる。① 軟質部は針貫入可能である。 18.22~18.37m 間 変質が著しい。上端と40°、下端は不明瞭。
	18.55			d	VI	D	γ	4				・18.68~19.89m 変質が著しく、割れ目、岩石組織をほとんど残さない。 全体に指圧で変形するほど軟質である。
	18.69											・19.19~19.50m、中20cm、灰白~淡褐色を呈する。 シム・砂混じり粘土層分布。275°程度凹出する。
	19.29											・19.00~19.25m } 変質が著しい。淡色絶帯を呈する。 ・19.55~19.89m }
19				d	VI	E	δ	4				0/19.89~20.29m. 2~10mm程度の間隔で細粒状の割れ目が発達し、変質粘土を(2mm)中1mm程度充填する。 岩片は、硬質である。
20				d	VI	D	δ	3	0	0		

調査名		孔番・深度		観察日								
		B14-2 (20 ~ 25)		8/3 ~ 8/9								
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分					最大コア長	岩級区分	破砕度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破砕性状・詳細スケッチ等
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
20	20.29			10YR 8/1 R/B	d	VI	D	8	3			9 20.05 ~ 20.29 m. 風化・変質作用(=?) 全体的に軟質化している。岩片状に4~5mm程度の部分と残骸が針貫入可能であった。 上端(20.05~20.09 m)及び下端(20.24~20.29 m)は、変質著しく(砂泥?)シロ色に呈する。 下端は66°で下位と接している。 0 20.29 ~ 20.90 m. 上位と比べて、風化・変質の影響弱くなるが、微細な割れ目状に全体に発達し脆弱。 20.48~20.52 m, 中径 24° } 変質部(砂泥?)状に 20.72~20.74 m, 中径 40° } 20.83 ~ 20.84 m, 中径 68° } 21.00 ~ 21.20 m 全体に割れ目状に発達し、片状コア。21.10~21.15 m は短柱状コア。 21.67 ~ 21.74 m 幅 3mm, 50° の灰白色粘土質砂。 21.73 ~ 21.75 m φ1~3cm 程度の礫状コア。
	20.55			5YR 7/1 明褐色	d	VI	D	8	3			
	20.90				d	VI	D	8	2			
	21.00				c	V			0	2		
	21.10 21.15 21.20				d d	VI VI	e	γ				
21	21.61			5YR 7/1 明褐色	c	V	D	8	3			21.30 21.61 ~ 21.67 m 幅 3mm, 50° の灰白色粘土質砂。 21.73 ~ 21.75 m φ1~3cm 程度の礫状コア。
	21.67				c	V	D	8	2			
	21.76				c	V	D	8	2			
	22.21 22.28 22.31				c	V	D	8	2			
	22.63				d	VI	D	8	2			
22	22.63			5YR 7/1 明褐色	c	V	D	8	2			22.39 ~ 22.63 m. 細粒割れ目発達し、割れ目に粘土。 22.63 ~ 23.71 m. 割れ目多し φ1~3cm の角礫状コア。
	22.63				c	V	D	8	2			
	22.63				c	V	D	8	2			
	22.63				c	V	D	8	2			
	22.63				c	V	D	8	2			
23	23.71			5YR 7/1 明褐色	c	V	D	8	2			23.71 ~ 23.85 m. 長さ 3~9cm の短柱状コア。23.71 m 程度の割れ目の面に黒色粘土が付着。 23.85 ~ 24.48 m. φ1~2.5cm の片状コアに呈する。 岩片は不規則であったが、割れ目沿いに、φ0.2~1cm 程度の細片化が認められた。 24.48 ~ 25.88 m. φ0.5~3cm 程度の礫状~片状コアに呈し、割れ目として認識できない。 コア採取時の細粒分を流失している。特に、25.30~25.77 m 間、φ5mm 以下のものが含まれている。 岩片は硬質で、風化・変質の影響少ない。
	23.71				c	V	D	8	2			
	23.71				c	V	D	8	2			
	23.71				c	V	D	8	2			
	23.71				c	V	D	8	2			
24	24.48			5YR 7/1 明褐色	c	V	D	8	2			24.48 ~ 25.88 m. φ0.5~3cm 程度の礫状~片状コアに呈し、割れ目として認識できない。 コア採取時の細粒分を流失している。特に、25.30~25.77 m 間、φ5mm 以下のものが含まれている。 岩片は硬質で、風化・変質の影響少ない。
	24.48				c	V	D	8	2			
25	25.88			5YR 7/1 明褐色	c	V	D	8	2			25.88 ~ 26.00 m. φ0.5~3cm 程度の礫状~片状コアに呈し、割れ目として認識できない。 コア採取時の細粒分を流失している。特に、25.30~25.77 m 間、φ5mm 以下のものが含まれている。 岩片は硬質で、風化・変質の影響少ない。
	25.88				c	V	D	8	2			

調査名		孔番・深度	B14-2 (25 ~ 30)	観察日	8/9							
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分					最大コア長	岩級区分	破砕度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破砕性状・詳細スケッチ等
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
25	25.12		Gp	明礫灰								Q. 25.88~26.62m. 土砂り~礫状を呈するコア. ・ 岩片は、φ5~15mm程度のものが多く、25.88~26.12m 間φ5~10mmのものも主体となる。 ・ 基質相当部は、シルト混じり中礫砂り持で、不規則にマンガン浸染されている。 ・ 指圧で変形するほど軟質である。
	25.88	5YR 5/1 礫灰		d	V	D	Y	2				
26	26.62		5YR 5/1 礫灰	88	d	V	E			0	0	D 27.62 ・ 26.62~27.5m 程度で、細粒の割れ目状発達し、割れ目部分に岩質劣化し、土砂り~片状を呈する。 ・ 27.28~27.62m 上位と比べて割れ目部分の岩質劣化は弱く、1~2cmの岩片状コアを呈する。 ・ 27.97~27.62m 礫60~65°の割れ目状、1.5~2.5cm 間隔で発達
	26.62	10YR 7/2 礫		C	V	D						
27	27.28		礫	28						0	0	27.62 27.62~27.97m. 割れ目の割れ目密集し、コアは中脆弱となる。 ・ 27.92~28.21m. 礫60~75°の密着割れ目状、2~3cm 間隔で発達する。礫20~25°の割れ目状、12cm 間隔で発達する。後者の割れ目は、マンガン浸染を伴う。 ・ 28.21~28.50m. 2~10m 間隔で微細な割れ目状発達し、コアは全体的に劣化している。 ・ 28.36~28.45m 間隔は、礫30°程度の微細な割れ目状、1~10mm 間隔で発達している。
	27.28	28										
28	27.97		礫	62								27.97 28.21 28.21~28.50m. 2~10m 間隔で微細な割れ目状発達し、コアは全体的に劣化している。 ・ 28.36~28.45m 間隔は、礫30°程度の微細な割れ目状、1~10mm 間隔で発達している。 Q. 28.45~28.50m. 岩石組織不明瞭となる。上 礫50°程度 28.50~28.66m 礫硬帯 (主として片割れ) 下 礫50° 49.1~49.67 ・ 28.50~28.53m 砂岩の礫(礫) 23~30mm、上端 礫50° 下端 礫40° 砂り(礫混れ) 礫10° 程度、上端は中1~1.5mm 黄白粘土状の礫(Hc2) 28.50~28.51m 砂り(礫) 礫土状硬質(Hc-2) ・ 28.53~28.66m 礫混り層(Hc3) 4~12cm 上端40° 下端は不明瞭。 ・ 全体に岩石組織不明瞭で、不規則に粘土細脈状の礫が散在する。 ・ 下端は、岩質劣化部を呈し、境界は不明瞭である。
	27.97	97										
29	28.76		5YR 6/2 礫	71	d	V	E	δ	4			Hc-2 H3 28.66 28.66~28.71m. 土砂り状を呈する岩質劣化部。 ・ 28.71~29.45m. 礫40°乃至60°の割れ目状、2~6cm 間隔で発達し、コアは、片状を呈する。 割れ目部分には、[Hc1] マンガンを伴う。 ・ 28.83~29.16m 間隔は、上下位と比べて岩質劣化となる。 ・ 29.16~29.45m 間隔は、風化・変質進行し、岩質劣化し脆弱。 ・ 29.45~29.91m. 岩石組織・割れ目不明瞭となる。 針入可能で、指圧で容易に崩れる。 ・ 27.76~29.81m. 硬質部を礫状に含む。 ・ 29.81~29.87m. マンガン浸染を伴う。 ・ 29.91~30.21m. 片状コア。
	28.76	83		C	V	P	δ					
30	28.91		7.5YR 7/4 明礫灰	14								28.91 29.16 29.45 29.91 30.21
	28.91	91		C	V	C						

調査名		孔番・深度		観察日															
		B14-2 (30 ~ 35)		8/10, 14															
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分					最大コア長	岩級区分	破砕度区分	記事・破砕性状・詳細スケッチ等							
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化					変質						
30	30.21		Gp SYR 7/2 明 礫 灰	22	C	V	C	δ	3	16	16	C _L	<ul style="list-style-type: none"> 29.91~30.21m: 40~55°の割れ目角 0.2~2cm間隔で発達。割れ目に沿って岩石組織が不明瞭となる。コアは全体に褐色を帯びる。 30.13m 中1cm, 43° 黄白砂泥(り)粘土存在。上盤側1: 中10~15mm 岩質炭化部を伴う。 30.21~32.40m: 40~50°の割れ目角 3~15cm間隔で発達し。柱状コアを主体とする。 割れ目には黄褐色化は認められるが、岩質は硬質である。30% 酸化汚染 30.28~30.44m: 長さ16cmの柱状コア。 30.62~30.72m: 40°程度の割れ目角 3~10cm間隔で発達し。上下位と比べて、中岩質炭化する。 31.55~31.73m: 40°と26°以上の割れ目角 3~5cm間隔で交錯し。コアは片短柱状を呈す。 32.40~32.67m: 45~60°の割れ目角 1cm間隔で発達し。割れ目に沿って岩質炭化が進行する。一部は岩石組織不明瞭となる。 32.67付近: 40~50°の割れ目 片短柱状に不規則な割れ目角 1~2cm間隔で発達し。コアは片短柱を呈す。 割れ目沿いに岩質炭化が認められる。岩片は石炭質である。 32.67~32.71m: 上下位と比べて割れ目間隔が狭く。コアは片短柱状を呈す。 32.71~33.01m: 不規則な細粒に割れ目角 発達する。コア 33.01~35.14m: 石炭質 片状~短柱状 コアを主体とする。 45~60°の割れ目角 3~6cm間隔で発達する。45°以上の高角割れ目角 20~60cm間隔で発達する。 一部割れ目沿いに岩質炭化し、細粒状を呈する。コアを呈す。 33.72m: 45°の割れ目には黄白砂泥付着が認められる。コア採取時材料を流失し、詳細は不明。 34.20~34.46m: 割れ目間隔(密化)が、コアは1~5cmの片短柱を呈す。割れ目面には、酸化汚染と泥の付着が認められる。一部は石炭質を伴う。 34.77m: 長さ12mm, 46°程度の 黄褐色~灰白粘土(り)砂 (コア内逆巻層)。 34.93m: 割れ目沿いに岩質炭化が。岩片には2~3mmの付着が。割れ目のコアは合意ない。 						
	30.44	b			IV	B	γ	2											
	30.62				V														
	30.76				V														
	30.96				V														
31	31.27		Gp SYR 7/2 明 礫 灰	22	C	III				16	16	C _M	<ul style="list-style-type: none"> 31.55~31.73m: 40°と26°以上の割れ目角 3~5cm間隔で交錯し。コアは片短柱状を呈す。 32.40~32.67m: 45~60°の割れ目角 1cm間隔で発達し。割れ目に沿って岩質炭化が進行する。一部は岩石組織不明瞭となる。 32.67付近: 40~50°の割れ目 片短柱状に不規則な割れ目角 1~2cm間隔で発達し。コアは片短柱を呈す。 割れ目沿いに岩質炭化が認められる。岩片は石炭質である。 32.67~32.71m: 上下位と比べて割れ目間隔が狭く。コアは片短柱状を呈す。 32.71~33.01m: 不規則な細粒に割れ目角 発達する。コア 33.01~35.14m: 石炭質 片状~短柱状 コアを主体とする。 45~60°の割れ目角 3~6cm間隔で発達する。45°以上の高角割れ目角 20~60cm間隔で発達する。 一部割れ目沿いに岩質炭化し、細粒状を呈する。コアを呈す。 33.72m: 45°の割れ目には黄白砂泥付着が認められる。コア採取時材料を流失し、詳細は不明。 34.20~34.46m: 割れ目間隔(密化)が、コアは1~5cmの片短柱を呈す。割れ目面には、酸化汚染と泥の付着が認められる。一部は石炭質を伴う。 34.77m: 長さ12mm, 46°程度の 黄褐色~灰白粘土(り)砂 (コア内逆巻層)。 34.93m: 割れ目沿いに岩質炭化が。岩片には2~3mmの付着が。割れ目のコアは合意ない。 						
	31.55				III														
	31.93				III	B													
	32.15				III														
	32.40				IV														
32	32.67		Gp SYR 7/2 明 礫 灰	22	V	C	δ	3	13	13	C _L	<ul style="list-style-type: none"> 31.55~31.73m: 40°と26°以上の割れ目角 3~5cm間隔で交錯し。コアは片短柱状を呈す。 32.40~32.67m: 45~60°の割れ目角 1cm間隔で発達し。割れ目に沿って岩質炭化が進行する。一部は岩石組織不明瞭となる。 32.67付近: 40~50°の割れ目 片短柱状に不規則な割れ目角 1~2cm間隔で発達し。コアは片短柱を呈す。 割れ目沿いに岩質炭化が認められる。岩片は石炭質である。 32.67~32.71m: 上下位と比べて割れ目間隔が狭く。コアは片短柱状を呈す。 32.71~33.01m: 不規則な細粒に割れ目角 発達する。コア 33.01~35.14m: 石炭質 片状~短柱状 コアを主体とする。 45~60°の割れ目角 3~6cm間隔で発達する。45°以上の高角割れ目角 20~60cm間隔で発達する。 一部割れ目沿いに岩質炭化し、細粒状を呈する。コアを呈す。 33.72m: 45°の割れ目には黄白砂泥付着が認められる。コア採取時材料を流失し、詳細は不明。 34.20~34.46m: 割れ目間隔(密化)が、コアは1~5cmの片短柱を呈す。割れ目面には、酸化汚染と泥の付着が認められる。一部は石炭質を伴う。 34.77m: 長さ12mm, 46°程度の 黄褐色~灰白粘土(り)砂 (コア内逆巻層)。 34.93m: 割れ目沿いに岩質炭化が。岩片には2~3mmの付着が。割れ目のコアは合意ない。 							
	32.77				V	C	δ	3											
	32.91				IV	B	γ	2											
	33.01				V	C	δ	3											
	33.21				V	C	δ	3											
33	33.01		Gp SYR 7/2 明 礫 灰	22	27	01	C	IV	B	γ	2	26	15	C _L	<ul style="list-style-type: none"> 31.55~31.73m: 40°と26°以上の割れ目角 3~5cm間隔で交錯し。コアは片短柱状を呈す。 32.40~32.67m: 45~60°の割れ目角 1cm間隔で発達し。割れ目に沿って岩質炭化が進行する。一部は岩石組織不明瞭となる。 32.67付近: 40~50°の割れ目 片短柱状に不規則な割れ目角 1~2cm間隔で発達し。コアは片短柱を呈す。 割れ目沿いに岩質炭化が認められる。岩片は石炭質である。 32.67~32.71m: 上下位と比べて割れ目間隔が狭く。コアは片短柱状を呈す。 32.71~33.01m: 不規則な細粒に割れ目角 発達する。コア 33.01~35.14m: 石炭質 片状~短柱状 コアを主体とする。 45~60°の割れ目角 3~6cm間隔で発達する。45°以上の高角割れ目角 20~60cm間隔で発達する。 一部割れ目沿いに岩質炭化し、細粒状を呈する。コアを呈す。 33.72m: 45°の割れ目には黄白砂泥付着が認められる。コア採取時材料を流失し、詳細は不明。 34.20~34.46m: 割れ目間隔(密化)が、コアは1~5cmの片短柱を呈す。割れ目面には、酸化汚染と泥の付着が認められる。一部は石炭質を伴う。 34.77m: 長さ12mm, 46°程度の 黄褐色~灰白粘土(り)砂 (コア内逆巻層)。 34.93m: 割れ目沿いに岩質炭化が。岩片には2~3mmの付着が。割れ目のコアは合意ない。 				
	33.21															V	C	δ	3
	33.41															IV	B	γ	2
	33.61															V	C	δ	3
	33.81															V	C	δ	3
34	34.01		Gp SYR 7/2 明 礫 灰	27	01	C	IV	B	γ	2	0	9	C _L	<ul style="list-style-type: none"> 31.55~31.73m: 40°と26°以上の割れ目角 3~5cm間隔で交錯し。コアは片短柱状を呈す。 32.40~32.67m: 45~60°の割れ目角 1cm間隔で発達し。割れ目に沿って岩質炭化が進行する。一部は岩石組織不明瞭となる。 32.67付近: 40~50°の割れ目 片短柱状に不規則な割れ目角 1~2cm間隔で発達し。コアは片短柱を呈す。 割れ目沿いに岩質炭化が認められる。岩片は石炭質である。 32.67~32.71m: 上下位と比べて割れ目間隔が狭く。コアは片短柱状を呈す。 32.71~33.01m: 不規則な細粒に割れ目角 発達する。コア 33.01~35.14m: 石炭質 片状~短柱状 コアを主体とする。 45~60°の割れ目角 3~6cm間隔で発達する。45°以上の高角割れ目角 20~60cm間隔で発達する。 一部割れ目沿いに岩質炭化し、細粒状を呈する。コアを呈す。 33.72m: 45°の割れ目には黄白砂泥付着が認められる。コア採取時材料を流失し、詳細は不明。 34.20~34.46m: 割れ目間隔(密化)が、コアは1~5cmの片短柱を呈す。割れ目面には、酸化汚染と泥の付着が認められる。一部は石炭質を伴う。 34.77m: 長さ12mm, 46°程度の 黄褐色~灰白粘土(り)砂 (コア内逆巻層)。 34.93m: 割れ目沿いに岩質炭化が。岩片には2~3mmの付着が。割れ目のコアは合意ない。 					
	34.21														V	C	δ	3	
	34.41														IV	B	γ	2	
	34.61														V	C	δ	3	
	34.81														V	C	δ	3	
35	35.01		Gp SYR 7/2 明 礫 灰	27	01	C	IV	B	γ	2	0	9	C _L	<ul style="list-style-type: none"> 31.55~31.73m: 40°と26°以上の割れ目角 3~5cm間隔で交錯し。コアは片短柱状を呈す。 32.40~32.67m: 45~60°の割れ目角 1cm間隔で発達し。割れ目に沿って岩質炭化が進行する。一部は岩石組織不明瞭となる。 32.67付近: 40~50°の割れ目 片短柱状に不規則な割れ目角 1~2cm間隔で発達し。コアは片短柱を呈す。 割れ目沿いに岩質炭化が認められる。岩片は石炭質である。 32.67~32.71m: 上下位と比べて割れ目間隔が狭く。コアは片短柱状を呈す。 32.71~33.01m: 不規則な細粒に割れ目角 発達する。コア 33.01~35.14m: 石炭質 片状~短柱状 コアを主体とする。 45~60°の割れ目角 3~6cm間隔で発達する。45°以上の高角割れ目角 20~60cm間隔で発達する。 一部割れ目沿いに岩質炭化し、細粒状を呈する。コアを呈す。 33.72m: 45°の割れ目には黄白砂泥付着が認められる。コア採取時材料を流失し、詳細は不明。 34.20~34.46m: 割れ目間隔(密化)が、コアは1~5cmの片短柱を呈す。割れ目面には、酸化汚染と泥の付着が認められる。一部は石炭質を伴う。 34.77m: 長さ12mm, 46°程度の 黄褐色~灰白粘土(り)砂 (コア内逆巻層)。 34.93m: 割れ目沿いに岩質炭化が。岩片には2~3mmの付着が。割れ目のコアは合意ない。 					
	35.21														V	C	δ	3	
	35.41														IV	B	γ	2	
	35.61														V	C	δ	3	
	35.81														V	C	δ	3	

調査名		孔番・深度		観察日									
		B14-2 (35 ~ 40)		8/14									
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長	岩級区分	破砕度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破砕性状・詳細スケッチ等	
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化					変質
35	35.11		Gp	明緑灰	III	c	r	2				<p>035.14~35.74m 割れ目が不規則な形状に発達し、風化・変質により岩質が劣化する。全体に黄褐色を呈する。</p> <p>35.20~35.50m 同上。不規則な劣化部が分布し、コアは、砂礫~片状を呈する。</p> <p>35.59m 中1~3mm、L50° 黄褐色の黄白粘土質砂。下部にマンガン汚染が認められる。</p> <p>35.64~35.91m 黄褐色の細粒状の砂。酸化汚染が認められる。</p> <p>35.88~36.09 黄褐色の細粒状の砂。酸化汚染は認められる。コアは、砂礫状を呈する。</p> <p>36.09~36.43m L40~60°の割れ目が、5~10cm間隔に発達。コアは、砂礫状を呈する。</p> <p>36.43~37.02m L50°程度の割れ目の他、不規則な割れ目が分布し、コアは、砂礫~片状を呈する。割れ目面は、黄褐色化する。岩片は石質で、割れ目、コア採取時に、軟質細粒物を流失している。</p> <p>37.20m 岩片に灰白シルトが付着する。</p> <p>37.52~37.89m 割れ目間の黄褐色化が進行し、コアは、砂礫~片状を呈する。コア状部では、割れ目、岩組織が不明瞭化する。</p> <p>37.89~38.10m 割れ目が、中10cm間隔に発達し、割れ目沿いに酸化汚染が認められる。割れ目の多くは密着する。ハンマーで打つと分離する。</p> <p>38.10~38.27m 破砕帯(4J) 石質凝り砂状破砕部(HJ)</p> <p>38.10~38.27m 破砕帯(HJ) 上端40°、下端60°、中10cm程度、シルト系砂の混入が認められる。下部は、シルト~粘土分を多く含む。</p> <p>38.10~38.19m 明灰色、38.19~38.27mは淡黄白色を呈する。</p> <p>38.27~38.67m 微細な粒状割れ目が発達し、割れ目沿いに、酸化・マンガン汚染が認められる。</p> <p>38.67~ 全体に、割れ目、岩組織が不明瞭で、白色、淡赤白色粘土状、不規則に分布する。全体に軟質で、針貫入可能である。(一部砂礫状)のケルペー作製の岩相を呈する。</p> <p>39.21~41.29m L30~50°の割れ目と不規則な割れ目が発達する。割れ目沿いに、黄褐色化し、コアは、岩片状を呈し、一部に石質部を塊状に含む。割れ目の多くは、シルト状の白色~黄褐色シルトを挟んでいる。</p> <p>39.21~40.13m 割れ目の多くは黄褐色化する。</p>	
	35.44			10YR 7/1 灰白	C	III	c	r	2				
	35.62					V	D	δ	3				
	35.74				35.74	7.5YR 7/1 明緑灰	IV	C	r	2			
	35.88					IV	C	r	2				
	36.09					IV	C	r	2				
	36.43					IV	C	r	2				
	36.72					IV	C	r	2				
	37.02					IV	C	r	2				
	37.52					V	D	δ	3				
37.89				V	D	δ	3						
38.10				V	D	δ	3						
38.19				V	D	δ	3						
38.27				d VI	E		4			HJ			
38.52				2.5YR 8/3 浅黄褐色	C	T	D	3					
38.67					d VI	E	4			D			
39.21				39.21	V	D	δ	3					
39.33				2.5YR 7/1 明緑灰	IV	C	r	2					
39.63					V	D	δ	3					
40					V	D	δ	3					

調査名		孔番・深度	B14-2 (40 ~ 45)		観察日								
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				ROD	最大コア長	岩級区分	破碎度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破碎性状・詳細スケッチ等
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化					
40	40.03		Gp	7.5YR	C	D	B	Y	2		Cl		・40.25~40.31m. 変質帯。上端L40。下端L50にて交互打。 灰白粘土の混じり粗砂~細砂。みこなる。(粉砂岩状)石英粒。 上下位のコアは中10~20mm オリ~7灰色を呈す。
	40.18												
	40.33												
41	41.29			7.5YR	C	V	D	δ	2	0	5		下 ・41.29~42.13m. 上位と比べて。風化・変質の程度弱く。コア表面滑らか。 230~50°の割れ目約1~10cm間隔で発達し。コアは片状を呈す。 ・41.65~41.74m. 割れ目密集し。コアは片状脆弱を呈す。
	41.65												
	41.74												
	42.13												
	42.27												
42	42.13			7.5YR	C	V	D	δ	2	10	10	42.13	・42.13~42.71m. (風化・変質の影響を強く受け。コアは軟弱を呈す) 特に42.37~42.47m. 間は。上下端L40の割れ目境界あり。岩組織。割れ目消失する。(Hj核を呈す)。 ・42.71~43.01m. 片状コアを呈し。片状軟弱で。ハニエ打鈴で。金剛金屈音を呈す。 43.00~43.01m. 間では。不規則に。岩片にて。風化変質が進行し。コアは粗砂~オリ~7灰色を呈す。 ・43.01~43.81m. ... 風化・変質の量多帯を強く受ける。一部にL40相当の岩片を呈す。多量に針入可能である。上端(L50)には。中8~10mm 石(混じり)シルトが分布する。 ・43.81~44.08m. 上位と比べて風化・変質の程度は弱い。L80以上の割れ目沿いに。土砂化が進行し。細粒に割れ目発達し。コアは脆弱である。 ・44.08~45.25m. L15°程度の割れ目約2~3cm間隔で発達する。L80°以上の割れ目が分布し。コアは片状を呈す。割れ目沿いに。多少岩塊化が進行。岩片は硬質である。 ・43.25~43.63m. 硬質柱状コア。 ・44.63~45.20m. 割れ目沿いの風化・変質が進行し。コアは。石炭~片状を呈す。岩片は硬質だが。多少針入。一部は指圧で崩れるほど軟弱なものである。 下端は。L52°の割れ目で。下位と境界した。 割れ目には。中4mm 砂と粗砂混じり岩片が挟みこまれ。同位のコアには。白雲母が散在する。 ・45.00~45.20m. D級岩盤
	42.27												
	42.37												
	42.47												
	42.71												
43	43.00		10YR	6.5	C	IV	D	δ	3	0	5	43.00	・43.01~43.81m. ... 風化・変質の量多帯を強く受ける。一部にL40相当の岩片を呈す。多量に針入可能である。上端(L50)には。中8~10mm 石(混じり)シルトが分布する。 ・43.81~44.08m. 上位と比べて風化・変質の程度は弱い。L80以上の割れ目沿いに。土砂化が進行し。細粒に割れ目発達し。コアは脆弱である。 ・44.08~45.25m. L15°程度の割れ目約2~3cm間隔で発達する。L80°以上の割れ目が分布し。コアは片状を呈す。割れ目沿いに。多少岩塊化が進行。岩片は硬質である。 ・43.25~43.63m. 硬質柱状コア。 ・44.63~45.20m. 割れ目沿いの風化・変質が進行し。コアは。石炭~片状を呈す。岩片は硬質だが。多少針入。一部は指圧で崩れるほど軟弱なものである。 下端は。L52°の割れ目で。下位と境界した。 割れ目には。中4mm 砂と粗砂混じり岩片が挟みこまれ。同位のコアには。白雲母が散在する。 ・45.00~45.20m. D級岩盤
	43.19												
	43.21												
44	43.81		7.5YR	6.5	C	V	D	δ	3	13	13	43.81	・43.01~43.81m. ... 風化・変質の量多帯を強く受ける。一部にL40相当の岩片を呈す。多量に針入可能である。上端(L50)には。中8~10mm 石(混じり)シルトが分布する。 ・43.81~44.08m. 上位と比べて風化・変質の程度は弱い。L80以上の割れ目沿いに。土砂化が進行し。細粒に割れ目発達し。コアは脆弱である。 ・44.08~45.25m. L15°程度の割れ目約2~3cm間隔で発達する。L80°以上の割れ目が分布し。コアは片状を呈す。割れ目沿いに。多少岩塊化が進行。岩片は硬質である。 ・43.25~43.63m. 硬質柱状コア。 ・44.63~45.20m. 割れ目沿いの風化・変質が進行し。コアは。石炭~片状を呈す。岩片は硬質だが。多少針入。一部は指圧で崩れるほど軟弱なものである。 下端は。L52°の割れ目で。下位と境界した。 割れ目には。中4mm 砂と粗砂混じり岩片が挟みこまれ。同位のコアには。白雲母が散在する。 ・45.00~45.20m. D級岩盤
	44.08												
	44.25												
	44.63												
	45.00												
45													

調査名		孔番・深度	B14-2 (45 ~ 50)		観察日	8/20							
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分				ROD	最大コア長	岩級区分	破碎度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破碎性状・詳細スケッチ等	
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ						風化
45	45.20		Gp 7.5YR 6/1 褐灰	d	VI	E	8	3		CL		<ul style="list-style-type: none"> 45.00~45.20m 風化・変質が強く受け、割れ目から、岩組織の一部が不明瞭化する。 45.20~45.76m. $\angle 60\sim 60^\circ$ の割れ目あり、2~10cm 間隔で発達し、コアは、片状・柱状を呈す。 割れ目には、石灰質の黄褐色土砂状物質も存在する。岩石は硬質である。 45.70~45.90m. 風化・変質がやや強く受け、一部割れ目。岩組織がやや不明瞭化する。 	
	45.76			III	B	Y	2			CM			
	45.90			IV	C								
	46.07			V	D				0	5	CL		
	46.17								8	3			
46	46.17											<ul style="list-style-type: none"> 46.07m: 中12mm. $\angle 35^\circ$ シルト質砂 挟在。 46.10~46.17m. マンガン汚染が拡大する。割れ目。岩組織不明瞭であるが、コアは硬質。 46.20m: 中16mm. $\angle 83^\circ$ 砂質泥(シルト)挟在。 46.44m 以下深部。変質の程度が弱く、上位と比べて、割れ目間隔が狭くなる。 	
	46.94												
	47.03												
	47.21												
	47.31												
47	47.31											<ul style="list-style-type: none"> 47.03m. 中3mm. $\angle 34^\circ$ 砂質シルト 挟在。 47.37~47.40m 破砕帯 (注: 断面 37.40m) 47.37~47.40m 破砕帯 (Hb) 上端 40°, 下端 45°, 中 20~25°。灰白砂質シルトを主として、中1~3mm 黄褐色粘土を挟在。上端は凹凹状、下端は凹凹状。Hbは、灰白硬土、砂質泥である。 47.40~47.44m 全体に変質作用が進行し、コアはシルト泥(粘土)状を呈す。 岩石は硬質であるが、細部に粘土質シルトが分布し、コアは全体として脆弱である。 	
	47.55												
	48.09												
	48.24												
	48.58												
48	48.58											<ul style="list-style-type: none"> 47.55m 中12mm. $\angle 60^\circ$。灰白変質粘土を挟在。 47.70~48.07m. $\angle 80\sim 90^\circ$。割れ目に沿って、若くは変質帯(粘土質)挟在。 48.09m 中1.3~5mm. $\angle 72^\circ$。シルト質砂。 48.09~48.86m 間。細部に、変質粘土質が挟在し、コアは粗粒砂状~片状を呈す。岩石は風化・変質は認められず。 	
	48.86												
	49.24												
	49.55												
	49.84												
49	49.84											<ul style="list-style-type: none"> 49.24~49.55m 破砕帯 (注: 断面 49.27) 49.24~49.27m 砂質粘土(Hc-2)。上端は凹凹状、(20°前後) 下端 $\angle 35^\circ$。中15~25mm。灰白砂質泥(シルト)粘土を主として。上端は灰白、下、下端は(コア)灰白、漸弱状。 49.27~49.42m 粗粒砂質泥(Hj)。上端は上記破砕帯と接し、下端は $\angle 35^\circ$ を示す。粘土細脈が $\angle 40\sim 60^\circ$ 程度分布する(注) Hb~Hc-2 相当の薄層も存在する。変質進行し、コアは緑灰色を呈す。 49.42~49.45m. Hb 相当。上端 45°。下端 20°。上下端に砂質粘土、0.3~5mm 程度。 49.50m. Hc-2 相当。中5~8m. $\angle 45^\circ$。白~淡黄白砂質泥(シルト)粘土。下 49.55~49.64m. 風化・変質が強い。コア表面粗く、脆弱。 	
	49.84												
	49.84												
	49.84												
	49.84												
50	49.84												
	49.84												
	49.84												
	49.84												
	49.84												

調査名		孔番・深度		B14-2 (50 ~ 55)		観察日		8/20, 8/27					
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				ROD	最大コア長	岩級区分	破碎度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破碎性状・詳細スケッチ等
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化					
50	50.27		Gp	75YR 5/1 砂岩	C	IV	C	γ	2		CL		49.69~50.50m. <40~50°の割れ目1~3cmで発達する(A). 75°以上の高角割れ目も分布する. コア採取時にLL. コアは1~5cmの片状を呈す. 上位と比較して風化・変質の程度は弱く、比較的良好的な岩盤と推定される。
	50.50	50.50			V								
51	51.43			コア欠					0	0			50.50~51.43m. コア落下、回収不能。
	51.93			5YR 6/1 粘灰	C	V	D	γ	3				51.43~52.36m. <55~75°の割れ目1.0~2.0m間隔で発達し、コアは、細片~片状を呈す。 全体に中変質し、長石類は絹雲石化し、コアは灰色を帯びる。 コアは脆弱で、1.5~2.0cmの細片状に砕ける。
52	52.14			75YR 6/1 粘灰						7	CL		51.87~51.72m. 中17mm, <40°. シルト・細砂混入の砂。
	52.36	52.36			C								
53	52.92			75YR 6/1 粘灰						2	CL		52.36~52.92m. <25~25°の割れ目1.0, 0.5~0.5cm間隔で発達し、コアは片~短柱状を呈す。
	53.13	53.13			d	VI	E	δ	3	0			8
54	53.27			75YR 7/1 粘灰	C	V	D				CL		53.33~53.35m. 粘灰層、中20~25mm、上下端部5°傾斜。 上側1.5cm中5~15mm粘土後石炭質。 (110°) 下側1.5cm中5~15mm 砂・細砂混入の粘土状。 (110°) 110°は灰色、見出し正断層
	53.33	53.33			C	VI		γ					
55	53.58			5YR 6/1 粘灰	B	IV	B	β	2	0	CL		53.82~54.40m. 密着した、<38°赤土<90°の割れ目1.0~3.0cm間隔で発達する。コアは、石炭質粒状を呈す。割れ目沿いの白色粘土は比較的粗粒である。
	54.40	54.40		54.40	40°	40°	40°						
55	55.40			5YR 7/1 粘灰	C	IV	C	γ	2	12	12	CL	

調査名

孔番・深度 B14-2 (55.00 ~ 60.00)

観察日

8/27

基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長	岩級区分	破砕度区分
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化			
56	55.40			明赤灰	IV	C	40	2	CL	55.40~55.84m 上下地之比で、完整岩化。軟質石灰(一部硬質岩片(硬心)が散在)。長石類は変質し、全体として赤色帯状。割れ目頻度も上下地之比で大となり、亀裂状となり、細粒状の割れ目とマンガン汚染がみられる。	
	55.84			2.5YR6/2 灰赤	IV	C	40	2			
57	56.57			10R5/1 赤灰					A	56.57~56.62m 上下地之比で、風化作用により、岩盤が赤化し軟弱となり。傾斜方向の割れ目がみられる。長石は新鮮部のみみられ、割れ目沿いに褐色色あり。	
	56.62										
58	57.05								CL	57.05~57.42m 上下地之比で、変質作用により、岩盤が赤化し軟質となり。長石類の大半は緑色の鉄(緑泥石?)に変質し、割れ目沿いにマンガン濃染(最大幅2mm)、周囲の細粒状の割れ目はマンガン汚染あり。	
	57.42			2.5YR6/1 赤灰							
59	57.68								CL	57.68~58.00m 上下地之比で、変質作用は軽微であり、硬質石灰。	
	58.00										
60	58.50								CL	58.50~58.78m 変質作用により、長石類は緑色の鉄(緑泥石?)に変質し、軟質となり。傾斜方向の割れ目が優勢となり。	
	58.78										
60	59.05								CL	59.05~59.25m 上下地之比で、変質作用は軽微であり、硬質石灰。	
	59.25										
60	59.55								CL	59.55~59.85m 上下地之比で、変質作用により、岩盤が赤化し、割れ目同様の2mm以下あり。微細な割れ目と併し、亀裂状となり。上部(59.80m付近)には、マンガン及び鉄の鉄泥石等、酸性汚染に軽微な汚染がみられる。下部(60.00~60.02m)	
	59.85										